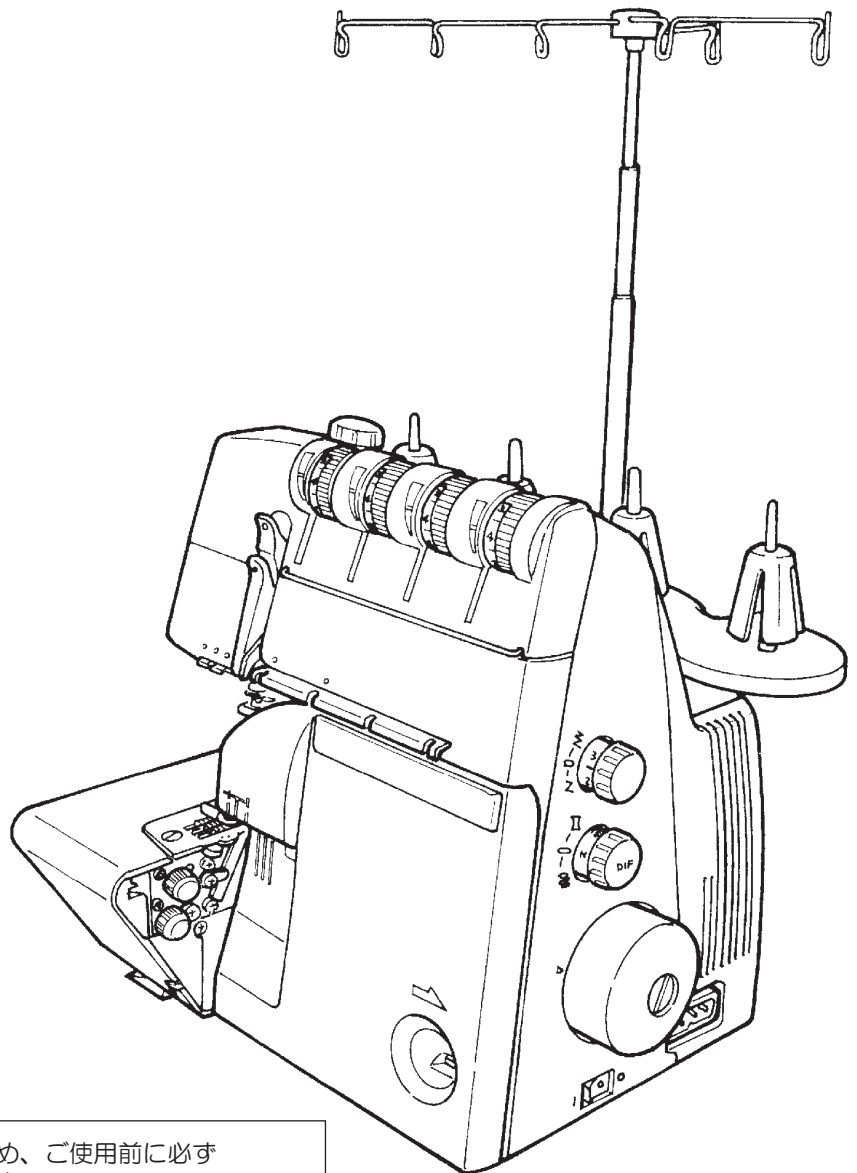


JUKI

2本針／2・3・4・5本糸＋カバーステッチ付き（差動調節付き）
オーバーロックミシン

MO-345DCN

取扱説明書



! 注意

安全にご使用していただくため、ご使用前に必ず
この取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧になれますように保管してください。

この度は、本製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。



ご使用になる前に「安全にご使用していただくために」をよくお読みいただき、この取扱説明書で機能や使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。

お読みになった後はいつでもご覧になれるところに保証書とともに保管してください。


安全にご使用していただくために

この取扱説明書および製品に使われている表示や絵文字は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

警告表示は以下のように使い分けています。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。



絵文字の意味は次のとおりです。

	注意すること		感電の危険があります		火災の危険があります		手などへの傷害の危険があります
	してはいけないこと		分解、改造をしないでください		針の下に指を入れないでください		油などを注がないでください
	必ず行うこと		電源プラグをコンセントから抜いてください				

このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。

このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。

This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.

 警告	感電、火災、故障の原因となります。
<ol style="list-style-type: none"> 一般家庭用交流電源 100V の電圧以外では、絶対に使用しないでください。 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> ● ミシンのそばを離れるとき。 ● ミシンをご使用になったあと。 ● ミシンのご使用中に停電したとき。 ● ミシンをお手入れするとき。 ● ミシンを移動させるとき。 ● 接触不良・断線などで正常に動作しないとき。 ● 雷が鳴りはじめたとき。 	
 注意	感電、火災、けが、故障の原因となります。
<ol style="list-style-type: none"> コントローラーの上に物をのせないでください。 	

2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンを操作するときはルーパーカバーなどカバー類を閉じてください。
4. ミシンの縫製中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。
6. けが、針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押ししたりしないでください。
7. けが、針折れの原因になりますので、まち針を布地に刺したまま縫わないでください。
8. お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご使用していただくことをご注意ください。
9. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
 - 針糸、ルーパー糸をセットするとき。
 - 取扱説明書に記載のあるコントローラーの取り付け、ミシンのお手入れを行うとき。
10. ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。
11. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは、速やかに使用を停止し、販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
 - 正常に作動しないとき。
 - 落下などにより破損したとき。
 - 水に濡れたとき。
 - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - 異常な臭い、音がするとき。
 - 異物が入ったとき。
12. 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
13. 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
14. 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
15. 電源プラグやコントローラを抜くときは、まず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。コード部分を引張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
16. 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
17. スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどの原因となります。
18. ミシン本体の換気口をふさがしないでください。換気口は必ず壁から 30 cm 以上離して使用し、換気口やコントローラに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。



19. ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。
20. 針の下に指などを入れないでください。また、作業時、ルーパーなど鋭利な部分には触れないでください。
21. ミシン本体には、取扱説明書に記載されている正規部品をご使用ください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。
22. ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか、破棄してください。
23. ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、けがの原因になります。



▲ 警告

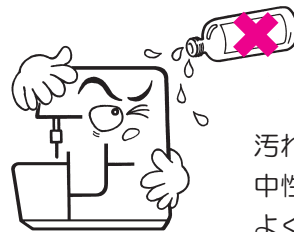
特に、布地と糸と針の組み合わせは、「針の交換」の説明表に従って適切な組み合わせでご使用ください。組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地（デニムなど）を細い針（#11 以下）でぬうと針が折れ、思わぬ怪我をする可能性があります。

その他のご注意

- 直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



- シナーなどの溶剤でふかないでください。

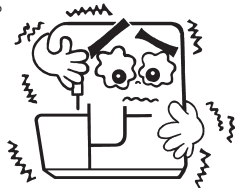


汚れたときは、やわらかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

このミシンは半導体電子部品や精密な電子回路を内蔵していますので、下記の状態がおこる場合があります。ご注意ください。

- 5℃～40℃の範囲でお使いください。

温度がいちじるしく低い場合、正常に動かないことがあります。

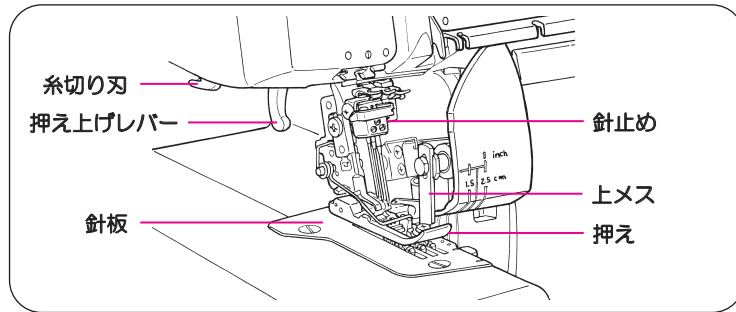
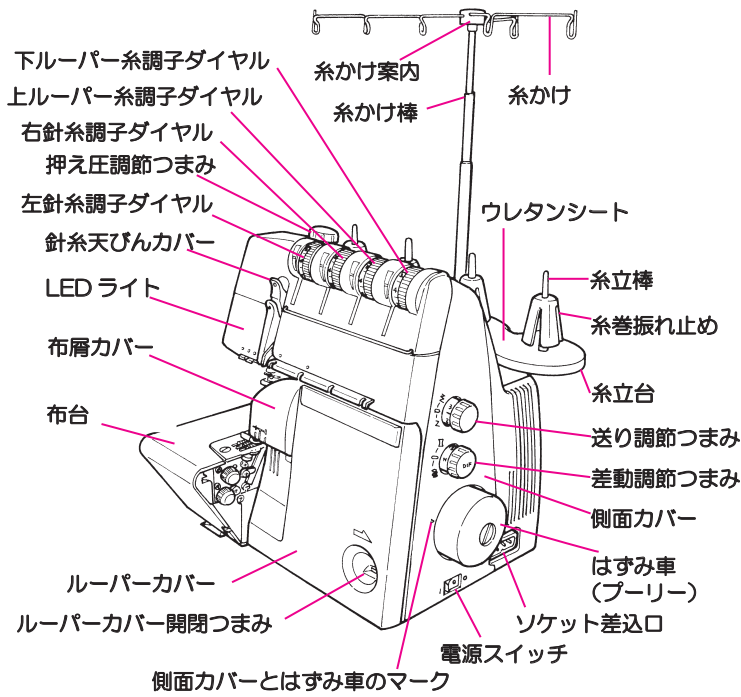


※ミシンの使用温度は5℃～40℃です。直射日光の当たるところや、ストーブ、ろうそくなど火の気のあるものそばや温度の高いところでは使用しないでください。ミシン内部の温度が上がったり、電源コードの皮膜等が溶けて火災・感電の原因となります。

もくじ

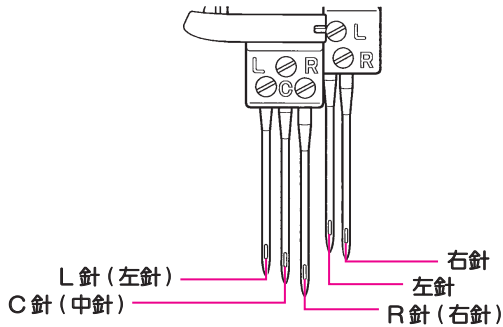
安全にご使用していただくために	1～3
各部の名称	5
付属品	5
動かす前の準備・各操作部とはたらき	～9
コントローラーのとりつけ方／布屑受け箱の取り付け方	
糸かけ棒と糸かけ糸案内のセット／補助糸立て皿のセット／糸ゴマのセット／電源スイッチ	
押え上げレバー／押えについて／押えの印／押えの交換／上メスの解除	
ルーパーカバーの開閉／布台の開閉／はずみ車（プーリー）について	
縫い代のガイド線について／押え圧調節つまみ	
針の交換／針の確認／布地・糸・針の関係	
オーバーロックの糸のかけ方	9～16
4本糸オーバーロック	糸かけ順序(1)(2)(3)(4) 10～11
ためし縫い	12
正しい縫い目・糸調子の調整	12～13
送り調節・下メス調節	13
差動調節・ギャザーの寄せ方	14
縫い始め・縫い終りの糸の始末	15
テープ付け	16
縫い目の糸のほどき方	16
3本糸オーバーロック	3本糸オーバーロックの糸かけ 17
巻き縫い	17
2本糸オーバーロック	2/3切替えアタッチメント 18
インターロック	インターロックの糸かけ順序(1)(2)(3) 18～19
正しい縫い目・糸調子の調節	19
カバーステッチ	上ルーパー解除・上メス解除 20
布屑カバーと補助ベット交換	21
3本針カバーステッチの糸かけ順序(1)(2)(3)(4)	21～23
2本針カバーステッチ	23～24
ためし縫い	25
糸調子の調整	25
縫い終りの糸の始末	26
使用例(1)(2)	26, 27
チェーンステッチ	糸かけ 28
ためし縫い・糸調子の調整	29
使用例	29
上メス、下メスの交換	30
掃除と注油	30
サービスをお申しつける前に	31, 32
別売付属品	33
仕様表	33
ステッチ一覧表	34, 35

各部の名称 / 付属品



■ 各針位置と名称

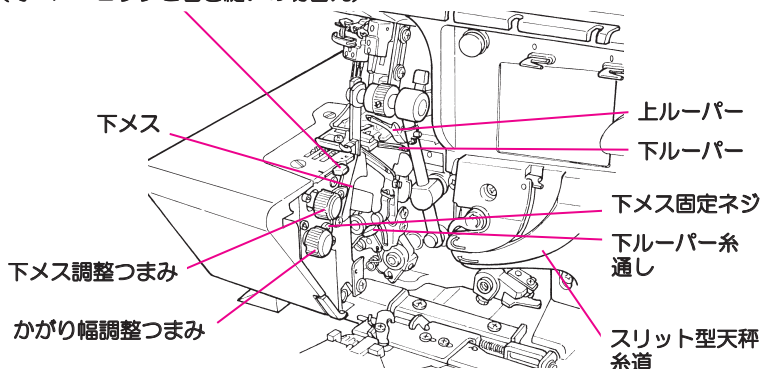
カバーステッチ オーバーロック



■ ルーパーカバーを開けたところ

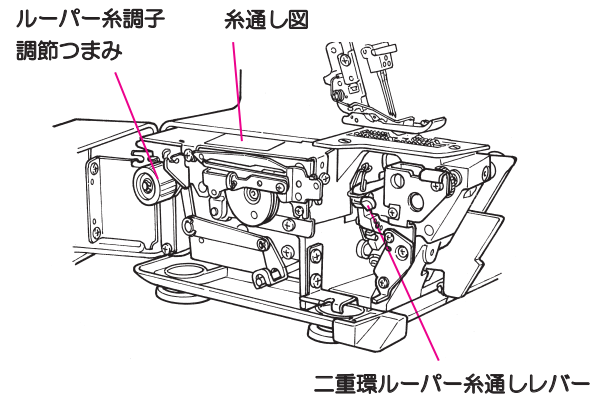
注意 ルーパーカバーを開けるときは、電源スイッチを切ってください。

かがり幅切替つまみ
(オーバーロックと巻き縫いの切替え)

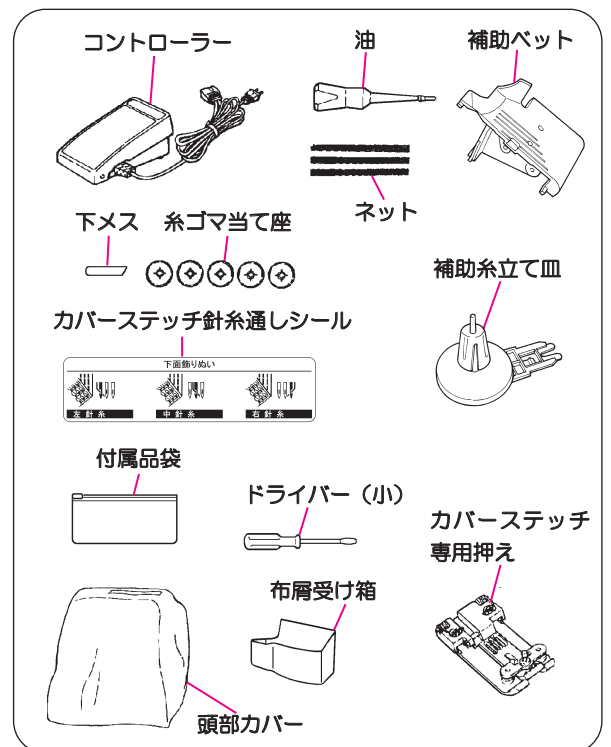
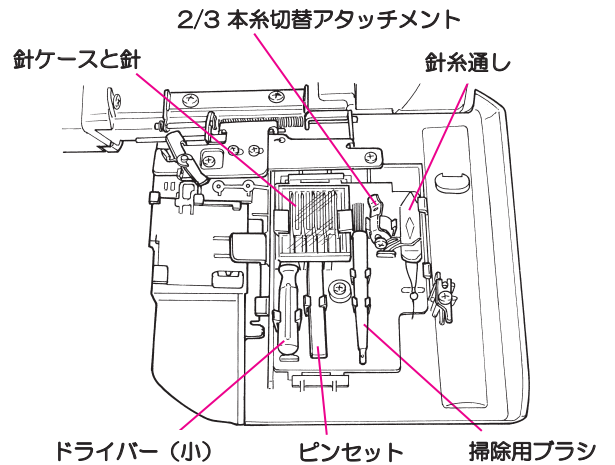


■ 布台を開けたところ

注意 布台を開けるときは、電源スイッチを切ってください。



■ 付属品



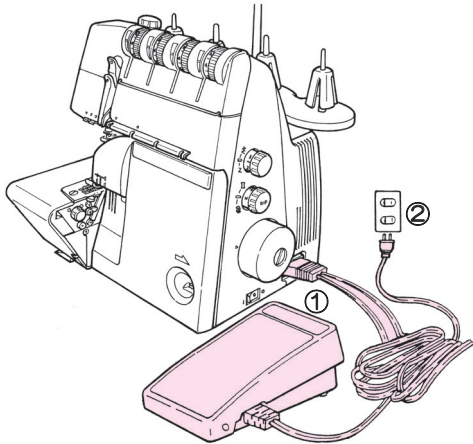
動かす前の準備・各部の操作とはたらき



注意 コントローラーのプラグを抜き差しするときは、電源スイッチを切ってください。

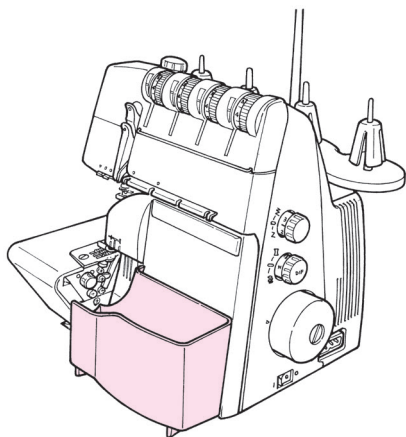
■ コントローラーを取り付けます

- ① コントローラーをソケット差し込み口に差し込みます。
- ② つぎにプラグを室内コンセントに差し込みます。
- ③ コントローラーの上に足をのせます。コントローラーを強く（深く）踏むと速くなり、弱く（浅く）踏むと遅くなります。



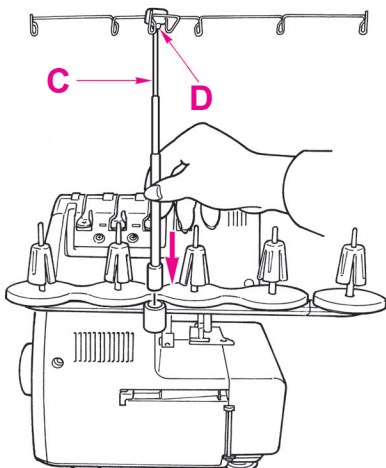
■ 布屑受け箱の取り付け

布屑受け箱をルーパーカバーの穴に差し込んでください。布を切断した後の布がそこに入ります。



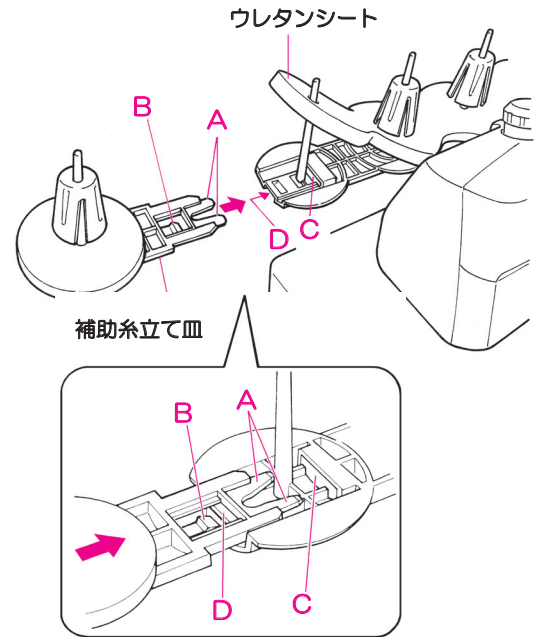
■ 糸かけ棒と糸かけ案内のセット

糸かけ棒 (C) を引き出し、位置決めストッパーに「カチッ」と入れて、糸かけ (D) が糸立棒の真上になるようにセットします。

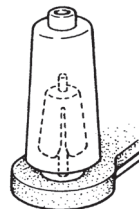


■ 補助糸立て皿のセット

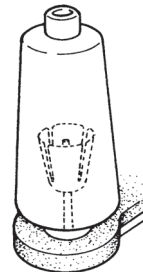
ウレタンシートを持ち上げて、補助糸立て皿の先端 (A) を (B) まで差し込みます。補助糸立て皿のひっかけ部 (B) が (D) の下側を通過して (C) 部まで差し込まれます。



■ ロック用糸の場合

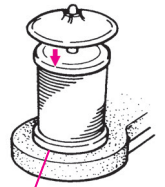


■ 大型糸巻き糸の場合



内径の大きい糸巻き糸は糸巻振れ止めを逆さにします。

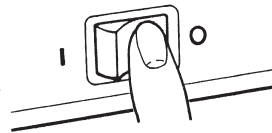
■ 家庭用糸ゴマの場合



切り込み部

糸巻振れ止めを抜き取り、糸ゴマの切り込み部を下に差し込み、糸ゴマ当て座の凸部を上から差し込みます。

■ 電源スイッチについて



○ 側を押すと電源が切れます。



I 側を押すと電源が入ります。



注意 ミシンをお使いにならないときは下記のことを行ってください。

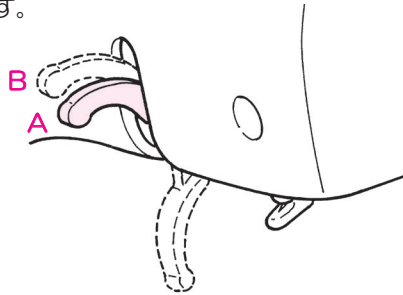
1. 電源スイッチをO (切る) にしてください。
2. 電源プラグは必ず室内コンセントから、はずしてください。
3. コントローラーの上に物を乗せないでください。

動かす前の準備・各部の操作とはたらき

■ 押え上げレバーについて (押え上げレバーにより押えをあげます。)

- A. 通常の場合、A位置まで上がります。
B. 押えの交換や厚布など押えと針板とのすき間を必要とするとき、B位置まで上げます。

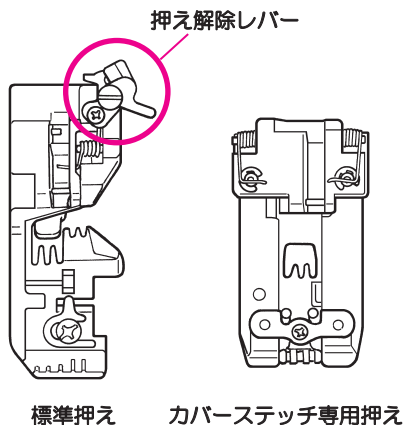
- ※ A位置にレバーを上げると糸調子皿が開きますので糸通しのときは、必ず押えを上げてください。
※ B位置まで上げると押え先端が高く上がり、便利です。



注意 B位置まで上げているとき、ミシンを動かしたり、はずみ車を回したりしないでください。

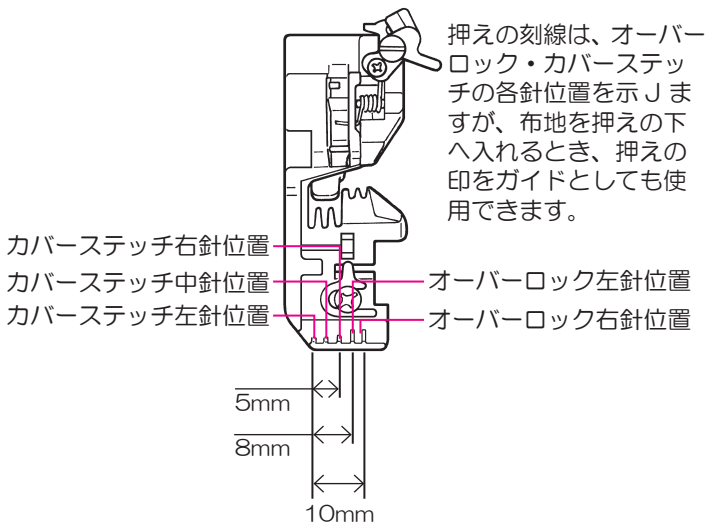
■ 押えについて

標準押えで全ての縫いができますが、カバーステッチ専用押えを使うと、リップ付けや伏せ縫いなどきれいに縫うことができます。



※ 押え圧を調整したいとき
カバーステッチをジャージーや水着のような生地に縫いたいときには、押えのレバーは後ろ側に押ししてください(押え圧は弱くなります)。通常の場合には、押えのレバーは手前側にしておいてください。

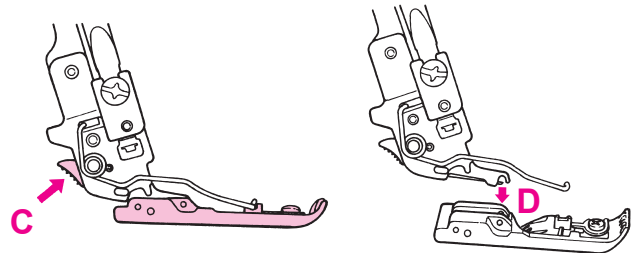
■ 押えの印について



■ 押えの交換

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

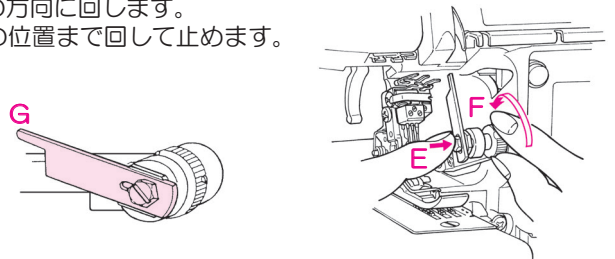
1. 押えを上げます。
2. はずみ車を回し、針を一番上まで上げます。
3. C部を押すと押えがはずれます。
4. 押えをとりつける場合は押え上げレバーをB位置に上げ、押えを下に置き、押えのピンをホルダーの溝の下に(D)正しく置き、押え上げレバーを下げれば自動的にセットされます。



■ 上メスの解除

注意 上メス解除のときは電源スイッチを切ってください。

1. はずみ車を回し、メスが一番上になる位置で止めて、ルーパークバーを開けます。
2. E部を右いっぱいまで、押しながら中央(F)のつまみを矢印の方向に回します。
3. Gの位置まで回して止めます。



■ ルーパーカバーの開閉について

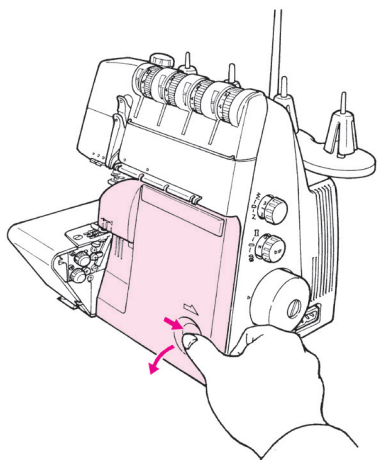


注意

ルーパーカバーを開けるときは電源スイッチを切ってください。

・ 開け方
ルーパーカバー開閉つまみを右側に引いてから手前に倒します。

・ 閉じ方
ルーパーカバーを上にあげ、軽く向こう側に押すと自動的に閉じます。



■ 布台の開閉について

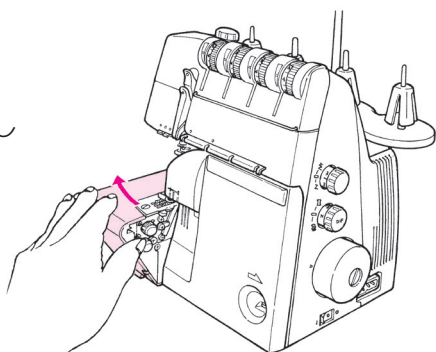


注意

布台を開けるときは電源スイッチを切ってください。

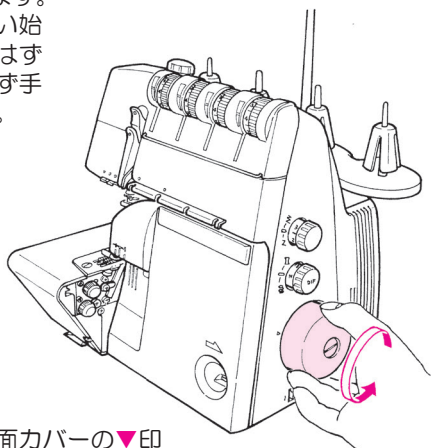
・ 開け方
布台の手前を左側に押しますと開きます。

・ 閉じ方
布台をミシンの方へ押します。



■ はずみ車 (プーリー) について

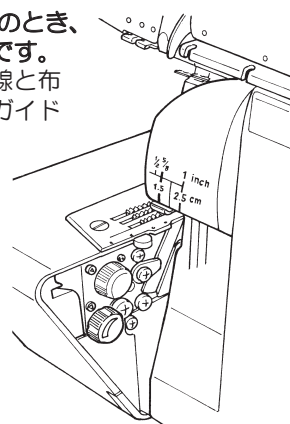
はずみ車は手前に回します。
※ 糸を通したあと、縫い始め、縫い終りなど、はずみ車を回すときは必ず手前に回してください。



※ はずみ車の口印と側面カバーの▼印を合わせると針は一番上になります。

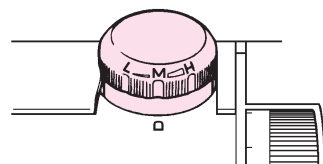
■ 縫い代のガイド線について

下メス調節つまみ目盛「1」のとき、右針からの縫い代のガイド線です。布地を裁断するとき、仕上り線と布端を一定の幅に決め、布端をガイド線に合せてお使いください。

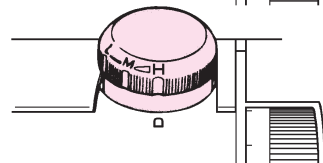


■ 押え圧調節つまみ

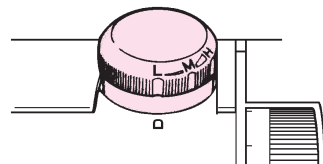
M: 普通地、通常のと き合わせます。



H: 押え圧力が強くなる。デニム、ツイード、堅いリネルなど厚手の布地。



H: 押え圧力が弱くなる。ジョーゼット、ローン、トリコットなど薄手の布地。

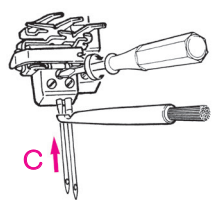
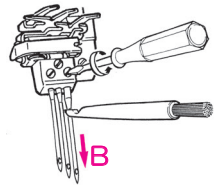
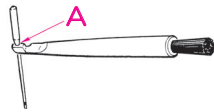


糸のかけ方

■ 針の交換のときは

注意 針の交換のときは電源スイッチを切ってください

1. 針を一番上まであげます。
2. 掃除用ブラシの反対側の針穴に針をさし込みます。(A)
3. ドライバー(小)を使い針止めネジをゆるめて針はずします。(B)
4. 掃除用ブラシの針穴に新しい針の平らな面を向こう側に針を入れ、針とりつけ溝穴の一番上まで差し込んでから、しっかりとネジを締めます。(C)

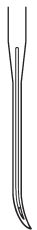


針の平らな面

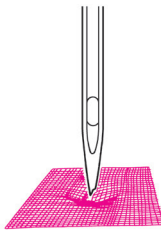


■ 針の確認

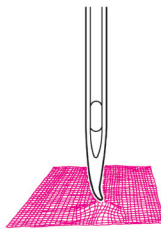
針については、下記を確認してください。



・ 曲がりがないか



・ 先端にダメージを受けていないか



・ 先端がまがっていないか

■ 針の種類

この小型ロックミシンの針は家庭用ミシン針を使います。
シュメツ 130 / 705H (HAX1タイプ)

針の種類	針の太さ	用途
HA × 1	12番	標準(薄物・普通物)用
	14番	厚物用

※お買い求めの際は、このタイプの針をご指定ください。
※ご購入時のミシンには、12番の針が取付けてあります。

■ 針の種類

・ かがり縫い、合わせかがり縫いの目安です。

針の種類	針の太さ	用途
薄地	ショーゼット、ローン、トリコット	スパン糸 80番～90番 HA × 1 12番
普通地	ポプリン、ギンガムブロード、ギャバジンメリヤス	スパン糸 60番～90番 フィラメント糸(テトロン) 50番～80番 HA × 1 12番～14番
厚地	デニム、ツイード、ジャージー	スパン糸 60番 フィラメント糸(テトロン) 60番 HA × 1 14番

美しい縫い目をつくるには…
正しい糸かけ順序で糸を通してください。

■ 準備

注意 糸かけ、糸通しのときは、電源スイッチを切ってください。

1. 糸かけ案内をつけた糸かけ棒を一番上までのばします。
 2. 針を一番上にします。
 3. 押えを上げます。(糸調子皿が開きます)
 4. ルーパーカバーをあげます。
- ※上メスを解除しますとさらに糸通しが容易になります。

■ 糸かけ順序

糸かけ順序を明確にするために糸かけ図と色表示がついています。

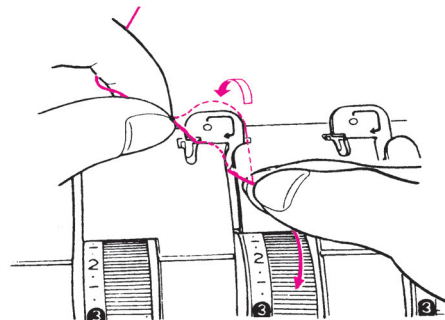
糸かけ手順は下記の順序で行います。

- 最初に、上ルーパー糸(青色印)
- 2番目に、下ルーパー糸(赤色印)
- 3番目に、右針糸(緑色印)
- 4番目に、左針糸(黄色印)

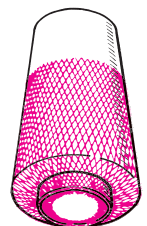
糸かけ、糸通しには付属のピンセットを使うと便利です。

■ 第1糸案内の糸の掛け方

糸かけ棒へ掛けた糸を下に持ってきて、第1糸案内の左側からかけて、下を通して手前に持ってきます。

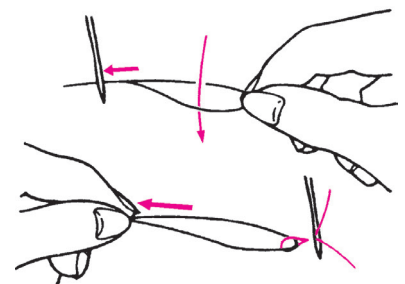


- ・ よりの強い糸にはネットをご使用ください。
- 付属のネットを上ルーパー、下ルーパーの糸駒にかぶせますと糸があばれなくなります。



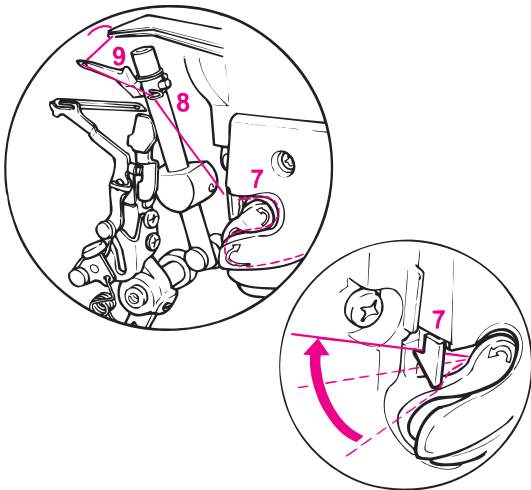
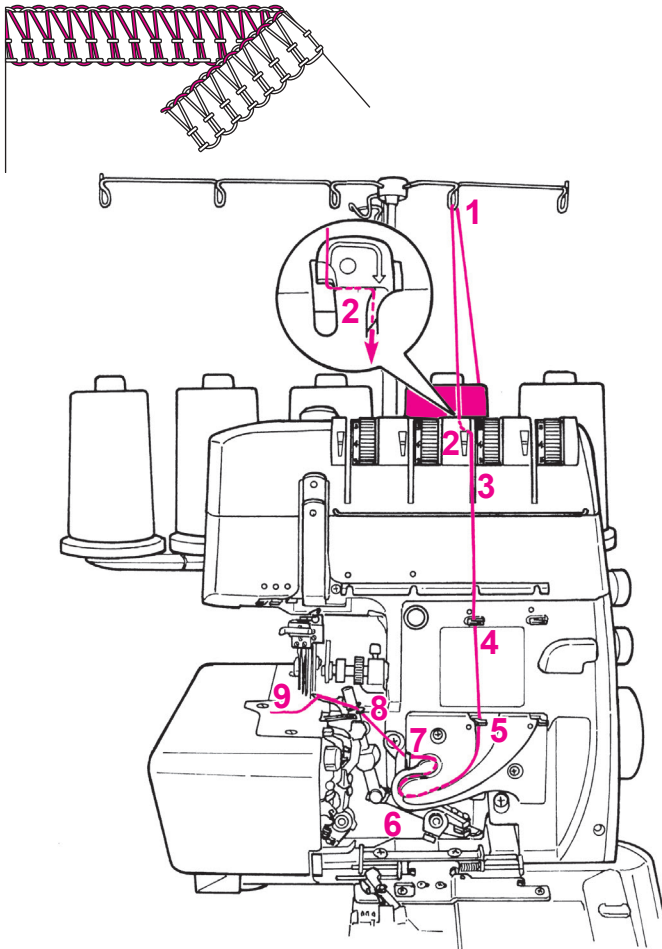
■ 針とルーパーの糸通し

糸を糸通しに入れる。針穴と上下の穴を通して、糸通しの先端を針の前から後に通します。



糸かけ順序 (1)

1 番目の糸かけ 上ルーパー糸 (青印)

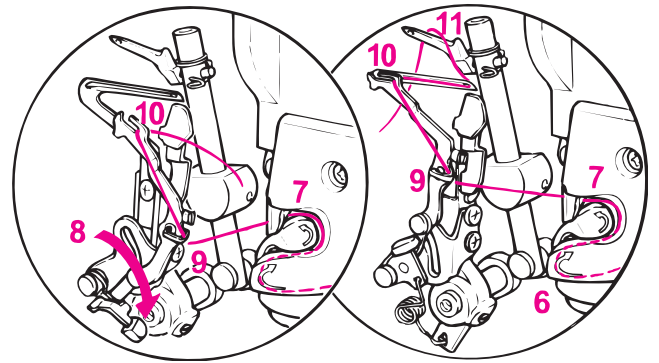
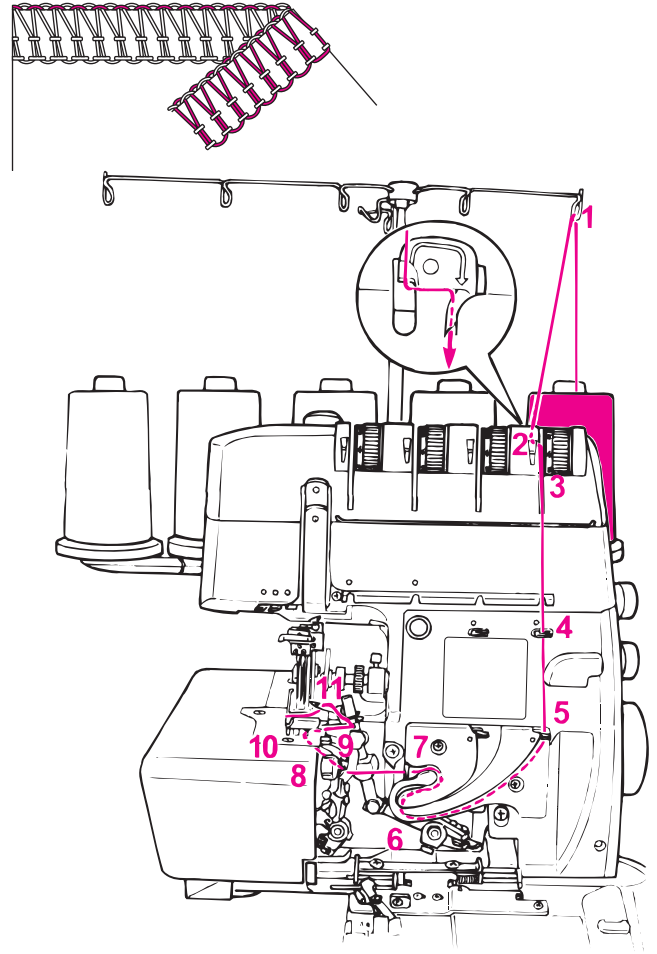


- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。
- (2) 第1 糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4, 5) 糸案内にかけます。
- (6) 溝にそって入れます。
- (7, 8) 糸案内にかけます。
- (9) はずみ車を回し、上ルーパーが上にくる位置で糸を通します。
- (10) 糸の先端を約 10 cm 引き出して押えの下に入れ、後ろに出します。

※ 押えが上っているか再度確かめます。
押えが下っていると糸調子皿が開きません。

糸かけ順序 (2)

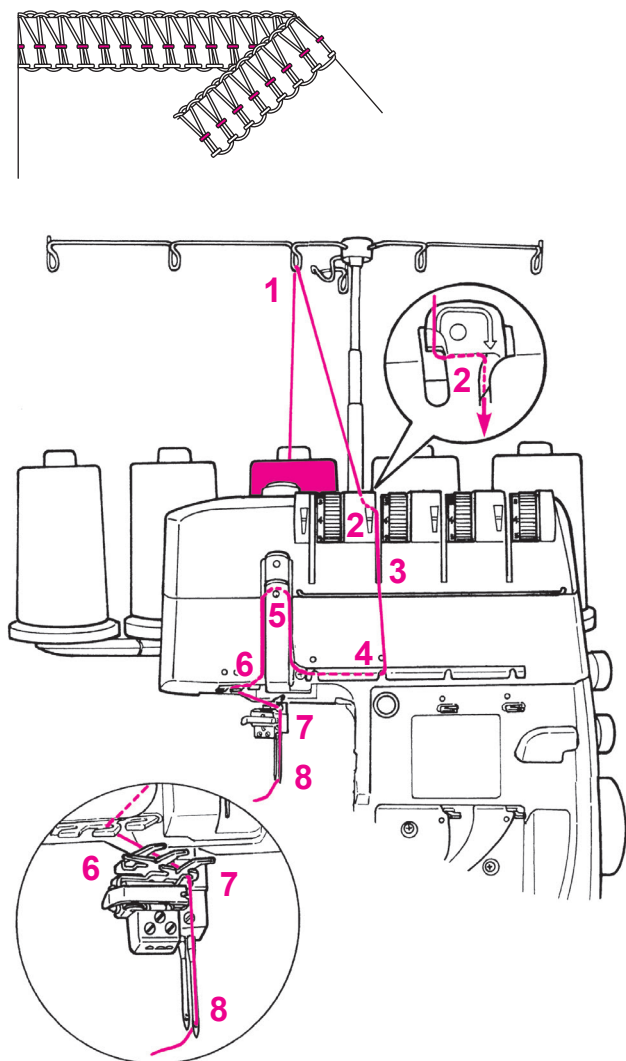
2 番目の糸かけ 下ルーパー糸 (赤印)



- (1) 糸ゴマから糸を真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1 糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4, 5) 糸案内にかけます。
- (6) 溝にそって入れます。
- (7) 糸案内にかけます。
- (8) 糸通しレバーをさげます。
- (9, 10) 糸案内にかけます。
- (11) 下ルーパー穴に糸を通し、後ろへ 10 cm ぐらい出します。
- (12) はずみ車を手前に回しますと糸通しレバーは元に戻ります。
- (13) 引き出した糸を上ルーパーの上方から下へもって行き、押えの下に入れ、後ろに出します。

糸かけ順序 (3)

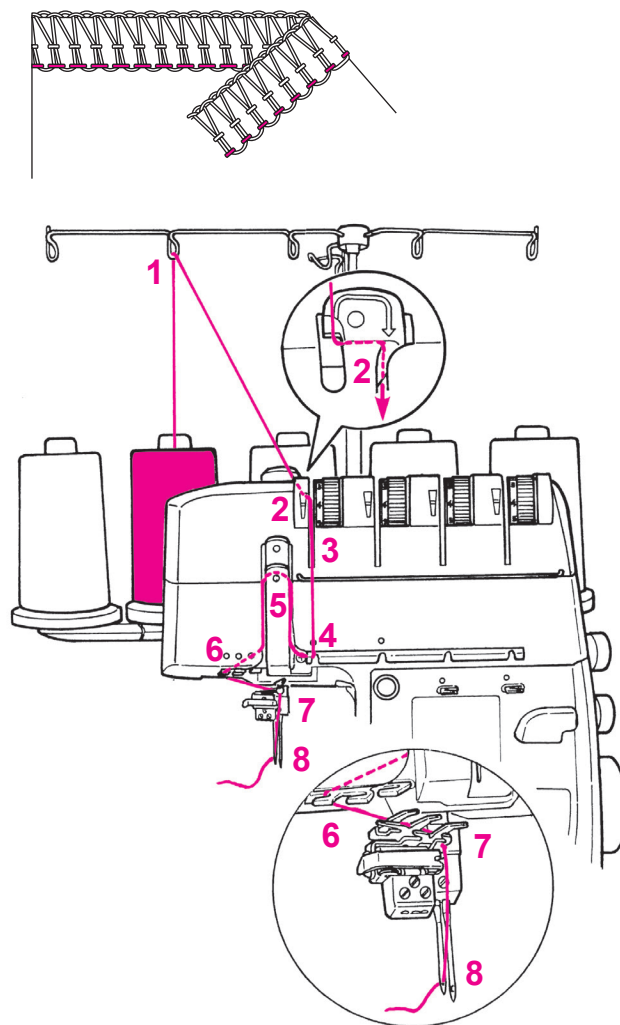
3番目の糸かけ 右針系 (緑印)



- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます
- (5) 天びんカバー (緑印) の溝に入れます。
- (6) 糸案内 (緑印) にかけてます。
- (7) 針棒糸案内にかけます。
- (8) 右針の針穴に、前から後に通します。ピンセットを使うと便利です。
- (9) 針穴を通した糸を押えの下に入れ、後ろに出します。

糸かけ順序 (4)

4番目の糸かけ 左針系 (黄印)



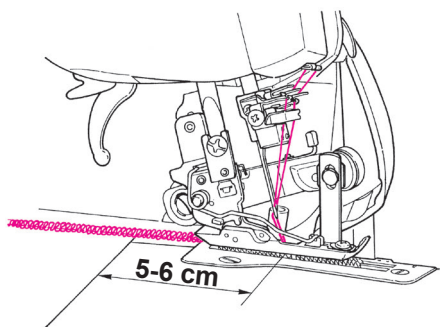
- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー (黄印) の溝に入れます。
- (6) 糸案内 (黄印) にかけてます。
- (7) 針棒糸案内にかけます。
- (8) 左針の針穴に、前から後に通します。ピンセットを使うと便利です。
- (9) 針穴を通した糸を押えの下に入れ、約 10 cm 後ろに出します。
糸通しが終わったら、上メスを下げ、ルーパークバーを閉じます。

ためし縫い

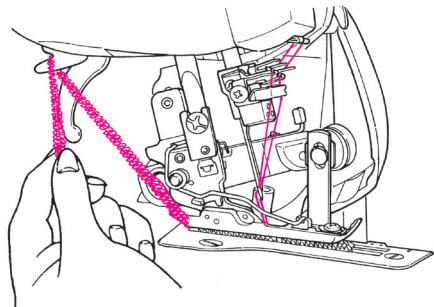
■ 糸かけが終わったら、ためし縫いをしてみましょう！

二枚合わせの布地を使い、縫い目や糸調子が正しいかどうか、調べます。

1. 上メスが下がっているかを確認めます。
※ チェーンステッチをする場合は、押えを上げ、針の位置まで布を挿入し押えを下げたあと、ためし縫いをしてください。
2. 押えを下げます。
3. 糸かけた糸を押えの後ろ側で持ち、コントローラーを踏んで空環を6～7cm 出します。
4. 押えの手前を指先で上げ布地を上メスのところまで入れます。
5. スタートさせます。
6. 縫い終わったら
5～6cm 空環を出します。



7. 糸切り刃に空環をかけて切ります。



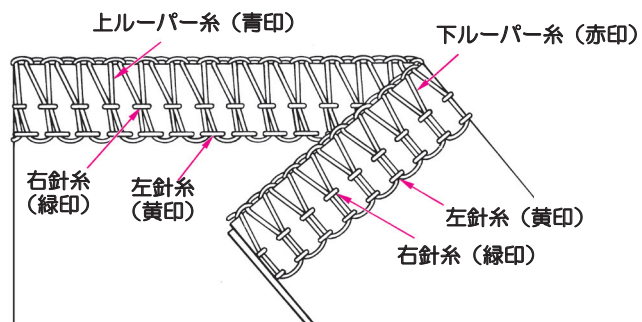
※^{からかん}空環とは：布地がなくて、糸の縫い目形状ができたものです。

正しい縫い目・糸調子の調整

■ 正しい縫い目

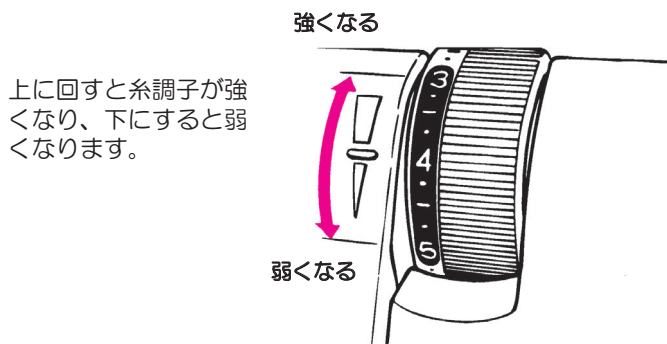
きれいな縫い目のときは、上下ルーパーの結節が布の端に揃っています。針糸の縫い目もまっすぐに見えます。

2 本針 4 本糸の例



■ 糸調子ダイヤルの合わせ方

不完全な縫い目は糸調子ダイヤル目盛（1～9）を調節するだけで修正できます。



上に回すと糸調子が強くなり、下にすると弱くなります。

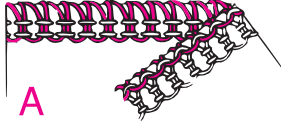
	ダイヤル目盛の目安
上ルーパー糸調子ダイヤル	3～5
下ルーパー糸調子ダイヤル	3～5
右針糸調子ダイヤル	3～5
左針糸調子ダイヤル	3～5

※ フィラメント糸やウーリーナイロン糸などは変化します。

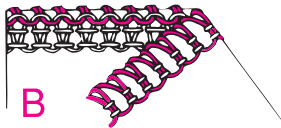
■ 糸調子の調整の仕方

糸調子ダイヤルは 1 目盛か半目盛ずつ回し、ためし縫いをしながら調節します。

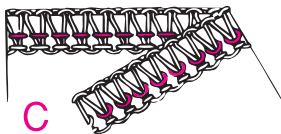
- 上ルーパー系が布地の下に出る場合
→ 上ルーパー系（青印）を強めるか下ルーパー系（赤印）を弱めます。



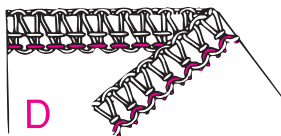
- 下ルーパー系が布地の上に出る場合
→ 下ルーパー系（赤印）を強めるか上ルーパー系（青印）を弱めます。



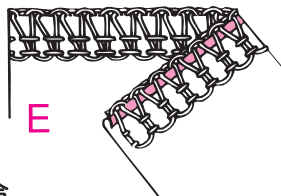
- 右針系が弱く布裏でループ状になる場合
→ 右針系（緑印）を強めます。



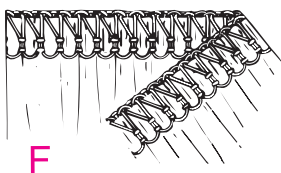
- 左針系が弱く布裏でループ状になる場合
→ 左針系（黄印）を強めます。



- 縫い目の中で布地がカールしている場合
→ 上ルーパー系（青印）と下ルーパー系（赤印）を弱めます。（下メス位置調節つまみで調節できる場合があります）右記参照。

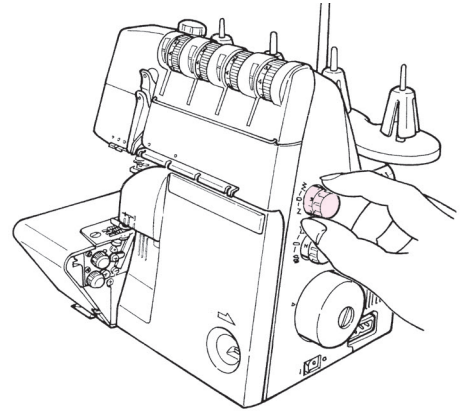


- 布地にシワが出る場合
→ 右、左針系（緑、黄印）を弱くします。



縫い中でも「1～4」の範囲で調節できます。

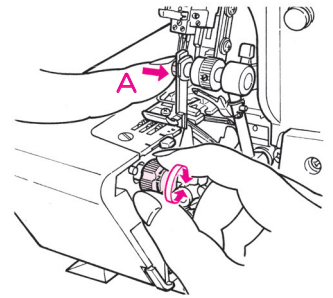
- 普通の縁かがりは「2.5」が標準です。
- 全巻き縫い、細ロック縫いは「1～1.5」が最適です。
- ブラインドステッチ（まつり縫い）は「4」にします。



■ 下メス位置調節つまみとかがり幅調節つまみ（かがり幅と布端カット位置の調節）

注意 下メス位置調節のときは電源スイッチを切ってください

上メスを解除するか、A部を押しながら下メス位置調節を回します。



布端カット位置の調節

下メス位置調節つまみ目盛	1	2	3
右針からのかがり幅	5mm	6mm	7mm
左針からのかがり幅	7mm	8mm	9mm

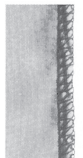
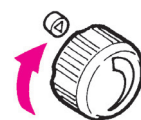
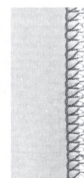
かがり幅の調節

かがり幅は、下メス位置の調節と連動し設定されますが、かがり幅を調節することで、さらに美しい縫い目が得られます。

※ 下メス位置・かがり幅調節で糸余りカールが出る場合には上・下糸調子ダイヤルで調整してください。



- 縫い目に布端がとどかない。（縫い目の中で布端にすき間がある）
 - かがり幅調節つまみを小さくなる方向に回します。
- 縫い目に布端が飛び出しているか、カールしている。
 - かがり幅調節つまみを大きくなる方向に回します。



※ かがり幅調節つまみの位置は最大が標準位置です。

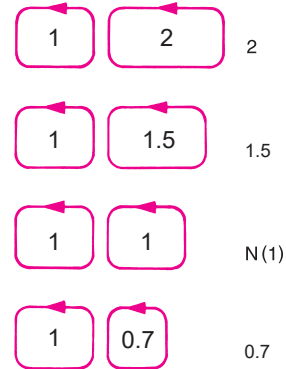
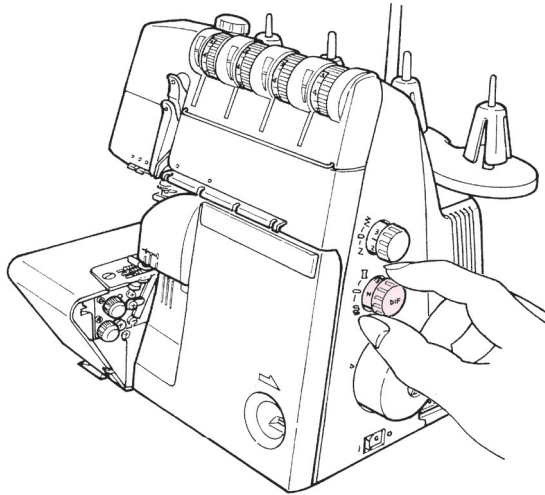
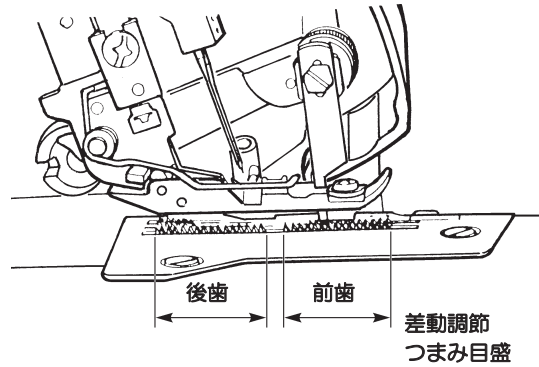
差動調節・ギャザーの寄せ方

■ 差動調節つまみ

縫いちぢみや、縫い伸びしやすい布地は差動調節つまみを使いますと縫い「しわ」や波うった布地が平らに美しく仕上がります。

※ この差動調節を応用して、一枚の布地にギャザー寄せ（下記参照）ができます。

- 送り歯の前歯と後歯の動きの速さを変化させることにより調節ができます。



布地	縫い伸びしやすい布地		織布	縫いちぢみしやすい布地
	厚地ニット地 厚地ジャージー その他伸びる布地	中厚ニット地 メリヤス ジャージー		
差動つまみ目盛	N → 1.5~2	N → 1.5	N (差動なし)	N → 0.7
差動調節有無の縫い目				

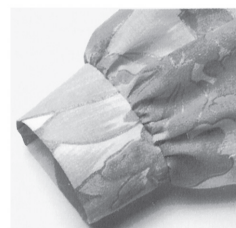
■ ギャザーの寄せ方

薄地、普通地の一枚の布地にギャザー寄せができます。
〔例〕スリーブヘッド、裾、ヨーク、レース、フリルなど

1. 差動調節つまみの目盛を「2」に合わせます。
2. 送り調節つまみの目盛を「4」に合わせます。

- 4 本糸ギャザー寄せ
- 3 本糸ギャザー寄せ

※ 極端にギャザーを寄せるときは縫い上がってから針糸を指で引張ります。
※ 差動送りをしない場合、差動調節つまみを「N」に戻します。



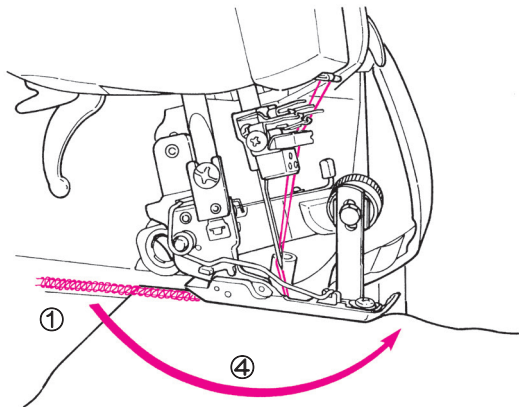
縫い始め、縫い終りの糸の始末

ロックミシンの場合、縫い始めと、終りの糸をそのまましておくとほつれてしまいます。縫い目を閉じてください。

1. ロックミシンでの始末

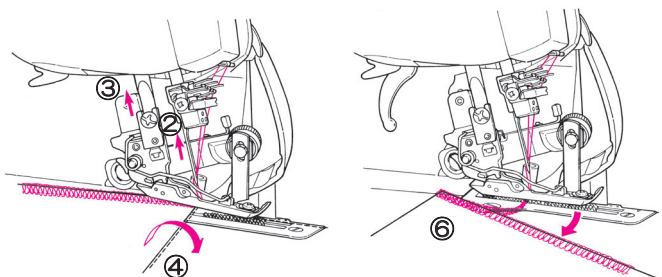
1) 縫い始めの糸の始末

- ① 縫い始めの空環を3~4cm 出します。
- ② 布地を2~3針縫います。
- ③ 針を下げて、押えを上げます。
- ④ スタートさせます。
- ⑤ 押えを下げて、空環の上から縫います。



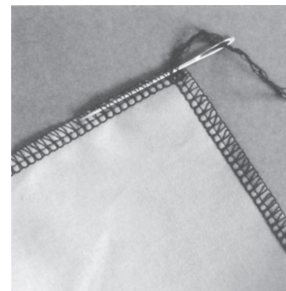
1) 縫い始めの糸の始末

- ① 布地の終りで針を止めます。
- ② 針を上げます。
- ③ 押えを上げます。
- ④ 布地を裏返して、かがり幅に合わせて針を落します。
- ⑤ 押えを下げます。
- ⑥ 今まで縫ったところが上メスに当たらないように2~3cm 縫い進み、布地をはずします。
- ⑦ 空環の始末をします。



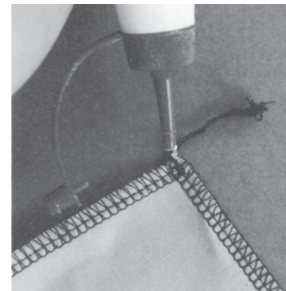
2. トジ針を使う始末：

縫い始め、終りの空環を2~3cm 残し、トジ針で縫い目の中に入れる方法です。



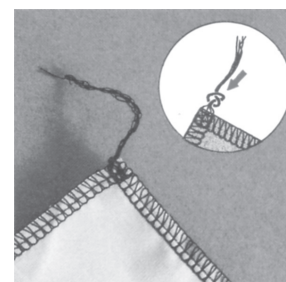
3. 手芸ボンドでの始末：

布上の空環の根元に手芸用ボンドを少しつけて乾燥してから余分な空環を落します。



4. 糸を結ぶ方法：

すべての糸を1本にまとめて結び、結び目を布上ぎりぎりまでの位置にします。そして余分な糸を落します。



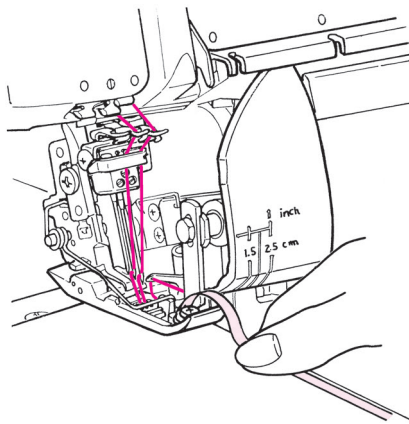
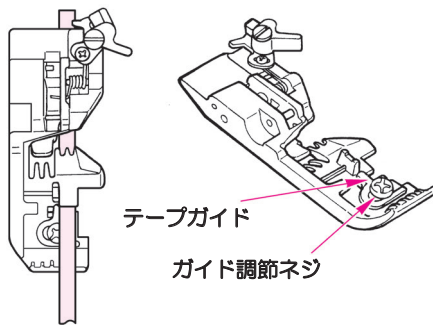
テープ付け

■ テープ付け縁かがり縫い

注意 上メスとテープガイドを操作するときは、電源スイッチを切ってから操作してください。

このミシンの押えにはテープ付け案内がついています。ニット地などの伸縮性のある布地の肩線や脇線などに使用すると伸び縮みしませんので、お試しください。

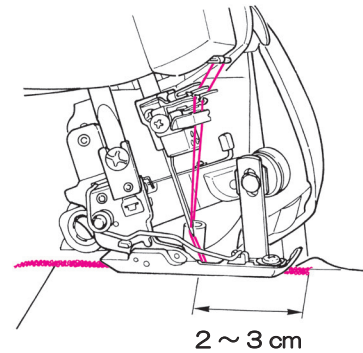
1. 針を一番上にします。
2. 押えを上げて、テープを押えのテープ入れ溝に右側から入れて、押えを下げます。
3. ガイド調節ネジをゆるめてテープガイドをテープの幅に合わせて、ガイド調節ネジをしめます。
4. はずみ車を手で回してテープを2～3針縫います。
5. 縫いつける布を押えの下におきます。
6. テープを軽く保持しながら縫います。



■ 縫っている途中で糸が切れたとき

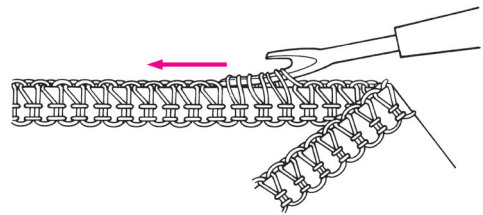
注意 糸をかけ直すときは、電源スイッチを切ってからかけ直してください。

1. すぐに縫いを中止して、布地をはずします。
2. 切れた糸をかけなおします。
※ 下ルーパー糸が切れた場合：針糸は針のところで切り、はずします。そして最初下ルーパーに、次に針に糸を通します。
※ 上ルーパー糸が切れた場合：上ルーパーが一番下がった位置で糸を通し、糸を約 10 cm 後へ引き出して押えの下へ入れます。
3. 押えを上げ、布地をその下へ入れます。すでに縫われた縫い目の上を2～3cm重ねて縫います。



■ 縫い目のほどこき方

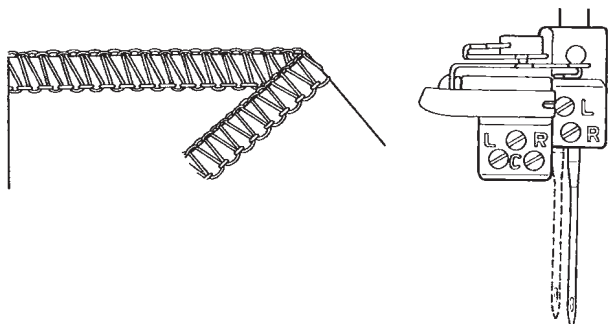
市販のリッパー（目ほどこき）で布端の上ルーパー糸と下ルーパー糸を同時に切り進みますと、布地をいためず縫い目が簡単にほどこけます。



■ 3本系オーバーロックの糸かけ

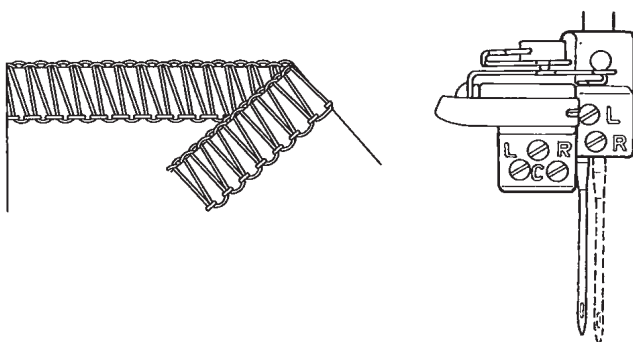
右針 (5～7 mm 幅) 縁かがりの場合

1. 左針を取り外します。
2. 上ルーパー、下ルーパーの糸通しは標準縫い (2本針4本系) と同です。



左針 (5～9 mm 幅) 縁かがりの場合

1. 左針を取り外します。
2. 上ルーパー、下ルーパーの糸通しは標準縫い (2本針4本系) と同です。

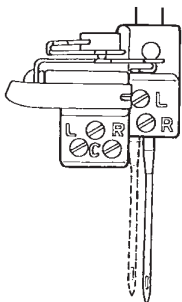


■ 巻き縫いについて

このミシンには巻き縫い装置が内蔵されていますので、全巻き縫いと細ロック縫いができます。裾や袖口など布端を自動的に巻き込みながら細く美しいかがりができます。

巻き縫いの準備

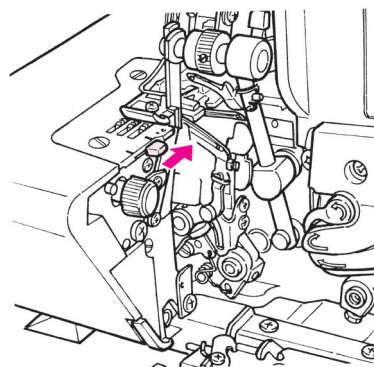
1. 左針を外します。
2. かがり幅切替えつまみを手前に引き、針板の手前の刻線に合わせます。
3. 下メス位置調節つまみの目盛りを「1」に合わせます。
4. 送り調節ダイヤル (縫い目の長さ) を「1～1.5」にします。



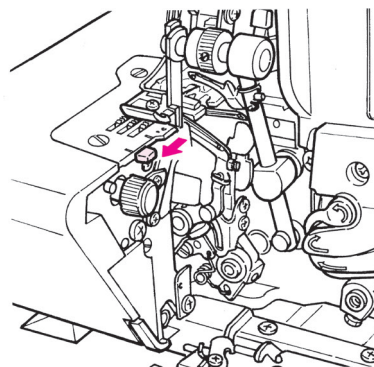
■ 巻き縫いについて

※はずみ車を回し、針を一番下にします。

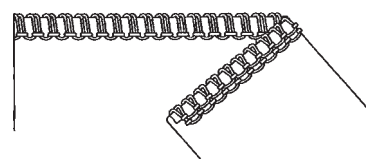
普通かがり縫いの場合：
かがり幅切替えつまみを向こう側に押し、針板の後ろ側の刻線に合わせます。



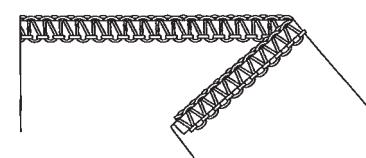
巻き縫いの場合：
かがり幅切替えつまみを手前に引き、針板の手前の刻線に合わせます。



全巻き縫い
全巻き縫いは上ルーパー糸で布橋をくるむ縫い目です。



細ロック縫い
細ロック縫いは普通の縁かがり縫いのかがり幅の狭い縫い目です。



■ 巻き縫い (全巻き、細ロック) の糸調子の目安表

※糸調子は下記の目安表を参考にしてください。

布地や糸の種類によって多少異なります。巻き縫いに使用するスパン糸は #90 までの細い糸を使ってください。ウーリーナイロン糸は上ルーパー糸だけに使ってください。

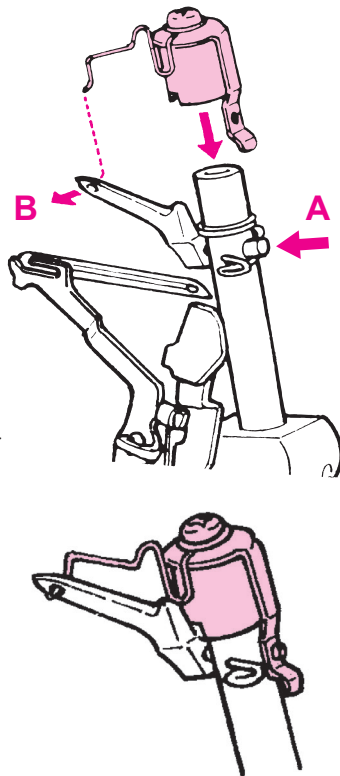
糸調子ダイヤル	全巻き縫いの場合			細ロック縫いの場合		
	針糸	上ルーパー	下ルーパー	針糸	上ルーパー	下ルーパー
使用糸						
スパン糸 #90	3～5	4～6	6～8	3～5	4～7	3～5
フィラント糸 #80	2～4	2～4	5～7	3～5	4～6	3～5
ウーリーナイロン糸 (上ルーパー糸)	—	2～4	—	—	2～4	—

2 本糸オーバーロック

■ 2/3 本糸切替アタッチメント

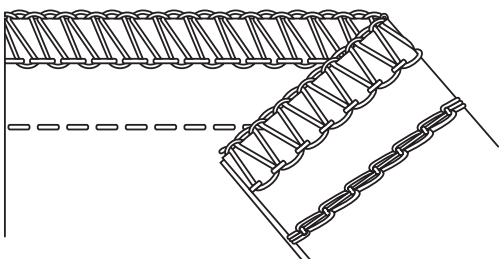
2 本糸のかがり縫いや飾り縫い（開き縫い）、2 本糸巻き縫いをしたい場合には 2/3 本糸切替アタッチメントを使ってください。

1. 針を一番上まであげます。
2. 電源スイッチを切ってください。
3. ルーパーカバーを開いてください。
4. ルーパーカバーの中に入っている 2/3 本糸切替アタッチメントを上ルーパーの軸にかぶせ、上ルーパー軸の凸部に、アタッチメントの穴をはめ込みます。(A)
5. 2/3 本糸切替アタッチメントの先端のフックを、上ルーパーの糸穴の後ろから前に差し込んでください。
6. このようにすると上ルーパー糸は繰り出されませんが、下ルーパー糸を繰り出して 2 本糸の縫い目が形成されます。



■ インターロックとは

- オーバーロックとはチェーンステッチ（チェーンステッチ）から成り立ちます。
- 布帛布地の縫い合わせとかがり縫いが同時にでき、シャツなどの脇縫いに多く使います。



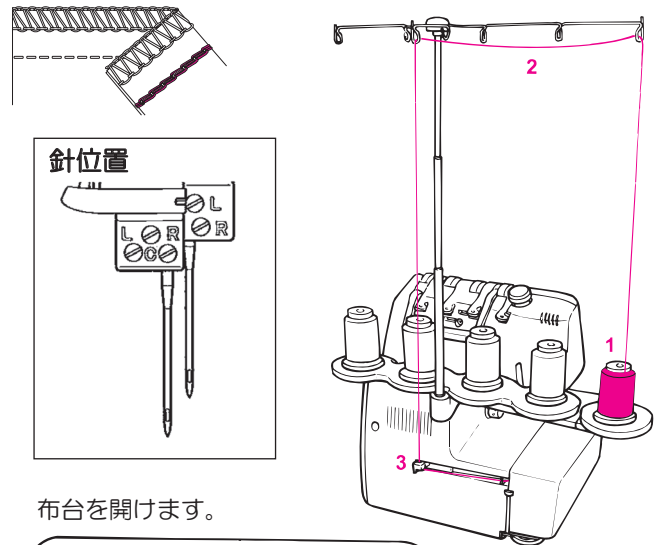
■ 準備

1. 布屑カバーを取り付けます。

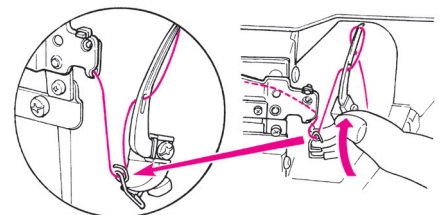
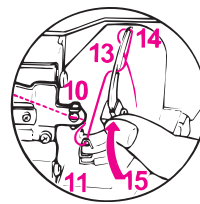
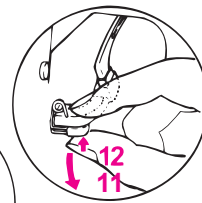
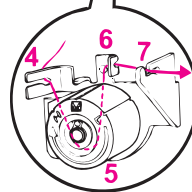
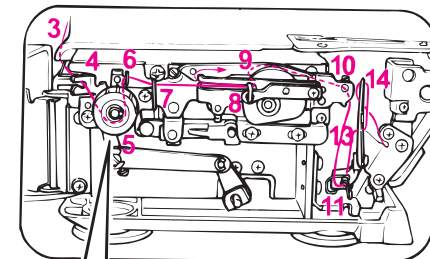
インターロックの糸かけ順序 (1)

二重環ルーパー糸（紫印）

上ルーパー糸については 10 ページを参照してください。下ルーパー糸については 10 ページを参照してください。オーバーロックの左針については右針の糸調子ダイヤルをお使いください。（緑色の糸経路：11 ページ参照）



布台を開けます。

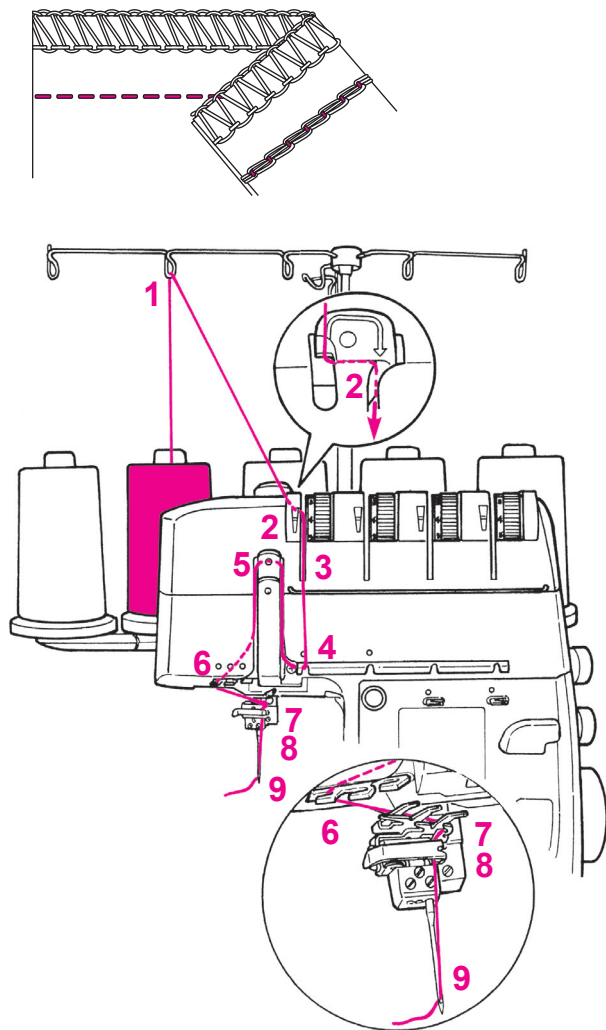


※ No.11 はチェーンステッチのときのみ通します。

- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。
- (2) 2の糸案内に通します。
- (3, 4) 糸かけ案内にかけます。
- (5) 糸調子ダイヤルに糸を掛けます。糸を糸調子皿に正しく入れるために両手で軽く糸を引きます。
- (6, 7, 8) 糸案内にかけます。
- (9) 糸案内溝に糸を案内します。
- (10, 11) 糸案内にかけます。
- (12) はずみ車を手前に回して、二重環ルーパーが一番左側に来るようにします。ルーパー糸通しつまみを指で押し上げて、指ではさみながらルーパーを下方向へ倒します。
- (13) ルーパーの後ろ側から前へ糸を溝に通します。
- (14) ルーパー糸穴の前から後ろ側に糸を通します。糸はルーパー糸穴から約 10 cm 引き出しておきます。
- (15) ルーパーを押し上げて、もとの位置に戻します。

糸かけ順序（2）

二重環針（R針）（茶印）



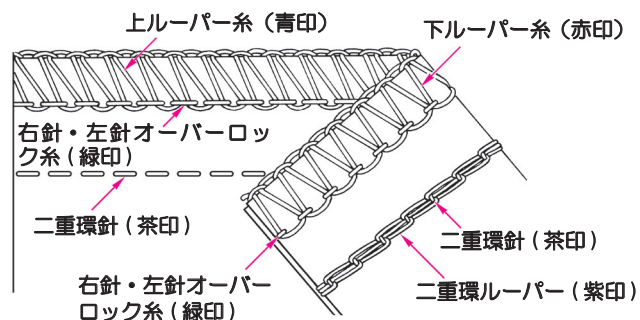
- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー（茶印）の溝に入れます。
- (6) 糸案内（茶印）にかけます。
- (7) 針棒糸案内にかけます。
- (8) R針の針穴に、前から後に通します。ピンセットを使うと便利です。
- (9) 針穴を通した糸を押えの下に入れ、後ろに出します。

正しい縫い目・糸調子の調整

■ 正しい縫い目

きれいな縫い目のときは、上下ルーパーの結節が布の端に揃っています。針糸の縫い目もまっすぐに見えます。

インターロック

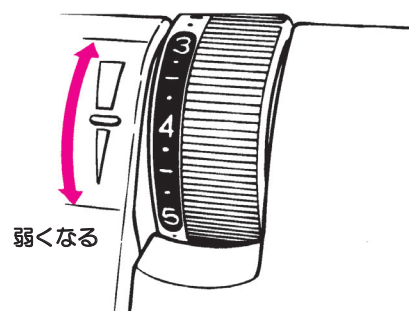


■ 糸調子ダイヤルの合わせ方

不完全な縫い目は糸調子ダイヤル目盛（1～9）を調節するだけで修正できます。

強くなる

上に回すと糸調子が強くなり、下にすると弱くなります。



弱くなる

	ダイヤル目盛の目安
上ルーパー糸調子ダイヤル	3～5
下ルーパー糸調子ダイヤル	3～5
右針糸調子ダイヤル	3～5
左針糸調子ダイヤル	3～5
二重環ルーパー糸調子	M
下メス幅	1～3
縫い目の長さ	2.5

※ 1本針2本糸+チェーンステッチのときの糸調引は35ページを参照ください。

※ フィラメント糸やウーリーナイロン糸などは変化します。

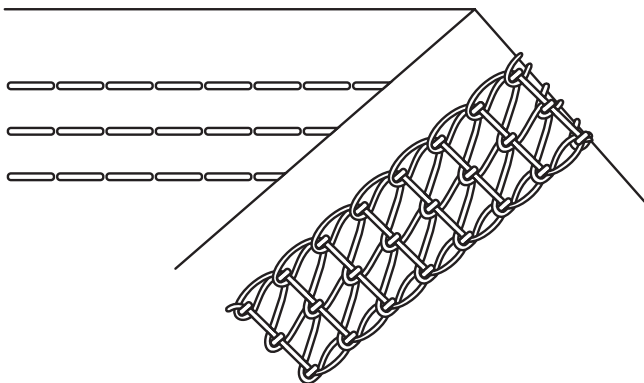
※ 様々な縫いパターンによる糸調子の設定は35ページを参照ください。

カバーステッチ

■ カバーステッチとは

- 5 mm幅のカバーステッチは、2本か3本の針とルーパーから成り立ちます。
- 針糸は、2本又は3本の平行線として布の表側に出てきます。
- 2.5 mm幅のカバーステッチは、2本針とルーパーから成り立ちます。
- ルーパース糸は布の裏をカバーし、仕上げています。
- カバーステッチの伸縮性は、伸縮地の為のゆとりをもたせています。
- 上メスは解除しておいてください。
- 空環を出さないで縫ってください。

(3本糸カバーステッチ)



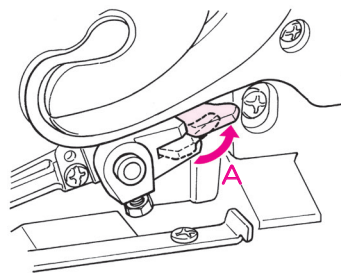
■ 準備

1. 上ルーパーを解除します。
2. 上メスを解除します。
3. 補助ベッドを取り付けます。

■ 上ルーパーの解除

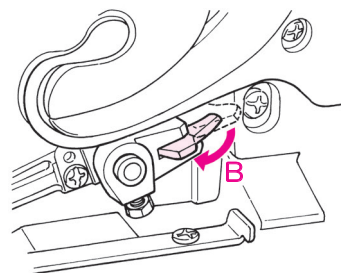
カバーステッチまたは二重環単独縫いを行うためには、先ず最初に上ルーパーを解除する必要があります。

- はずみ車を手前に回して、上ルーパーを一番下になるようにします。
- ルーパーカバーを開きます。
- 上ルーパーリリースレバーを後に押し(A)、上ルーパーを解除します。



上ルーパーを元に戻すには

- 針が一番低い点にくるように、また、上ルーパーを一番下になるようにします。
- ルーパーカバーを開きます。
- 上ルーパーリリースレバーを手前に引き(B)、上ルーパーを動かします。



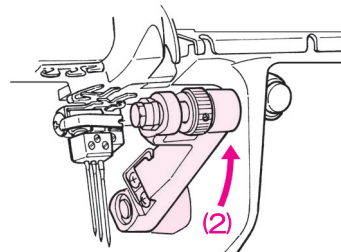
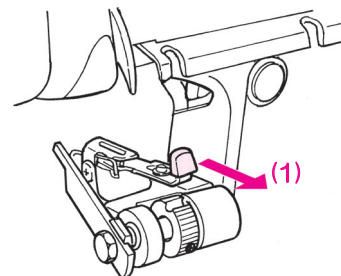
■ 上メスの解除

カバーステッチや二重環単独縫いの場合には、メスを解除してスペースが作れます。

⚠ 注意 上メス解除のときは電源スイッチを切ってください

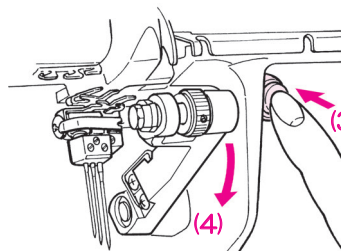
上メスの解除

- はずみ車を回し、メスが一番上になる位置で止めて、ルーパーカバーを開けます。
- 上メスを上に解除します。(7ページ参照)
- レバー(1)を引きます。
- 上メス揺動腕を上跳到ね上げます。



上メスを元に戻すには

- 上メス揺動ボタン(3)を押します。(4)のように下がります。
- 上メスを下げます。(ルーパーカバーを閉めます)



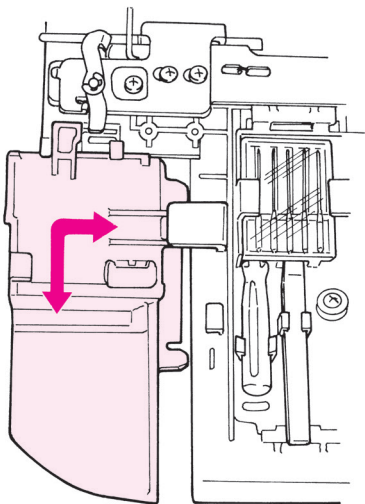
3本針カバーステッチ 糸かけ順序 (1)

■ 布屑カバーと補助ベットの交換

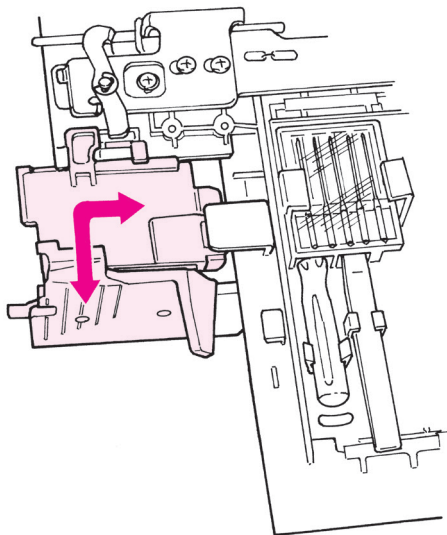
カバーステッチや二重環単独縫いの場合には、布屑カバーを補助ベットに交換する必要があります。
補助ベットは解除された上ルーパー部をカバーし、押えの右側にベット面を拡大します。

交換するには

- ルーパーカバーを開けます。
- 上メスを解除します。
- 布屑カバーを左側に丁寧に引っ張ります。

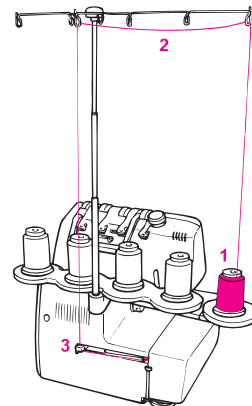
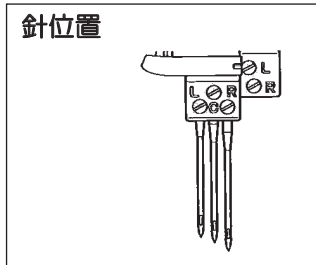
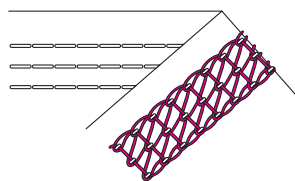


- 補助ベットを付ける為には、それを角度を保ちながらルーパーカバーに差し込む。
- 二箇所での差し込み口に対して、同時に差し込み、クリック感があるところまで押し込む。

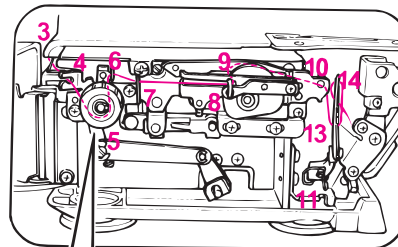


1. ルーパー糸の糸通し (紫印)

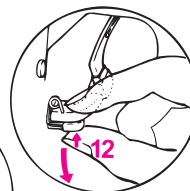
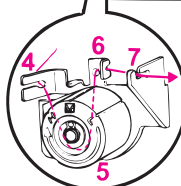
※ ルーパー糸は必ず一番最初にかけてください。



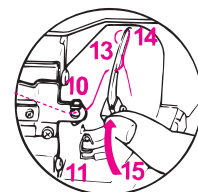
布台を開けます。



※ No.11 にはかけません。



※ No.11 はインターロック、チェーンステッチのときのみ通します。

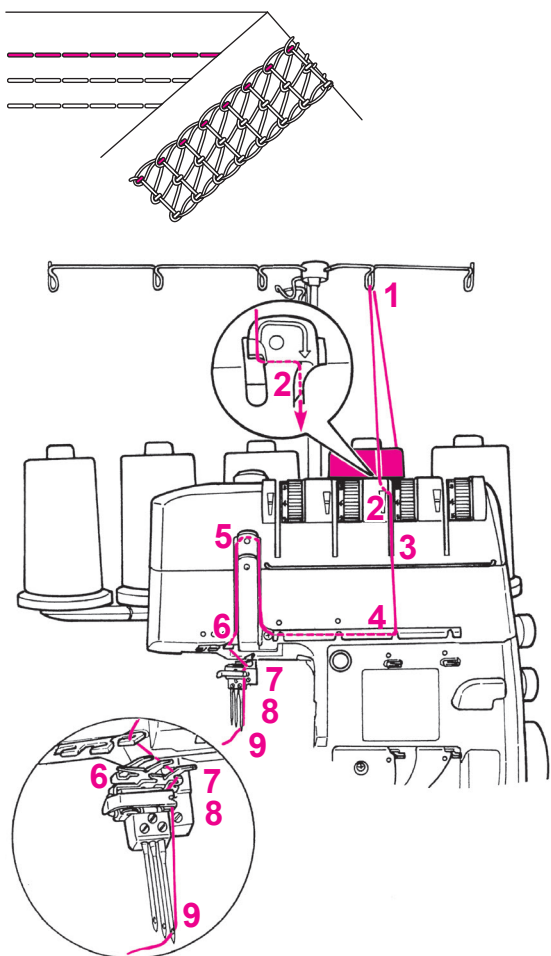


- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。
- (2) 2の糸案内に通します。
- (3, 4) 糸かけ案内にかけます。
- (5) 糸調子ダイヤルに糸を掛けます。
糸を糸調子皿に正しく入れるために両手で軽く糸を引きます。
- (6, 7, 8) 糸かけ案内にかけます。
- (9) 糸案内溝に糸を案内します。
- (10) 糸案内にかけます。
- ※ (11) カバーステッチでは使用しません。
- (12) はずみ車を手前に回して、ルーパーが一番左側に来るようにします。
ルーパー糸通しつまみを指で押し上げて、指ではさみながらルーパーを下方向へ倒します。
- (13) ルーパーの後ろ側から前へ糸を溝に通します。
- (14) ルーパー糸穴の前から後ろ側に糸を通します。
糸はルーパー糸穴から約 10 cm 引き出して垂らしておきます。
- (15) ルーパーを押し上げて、もとの位置に戻します。

糸かけ順序 (2)

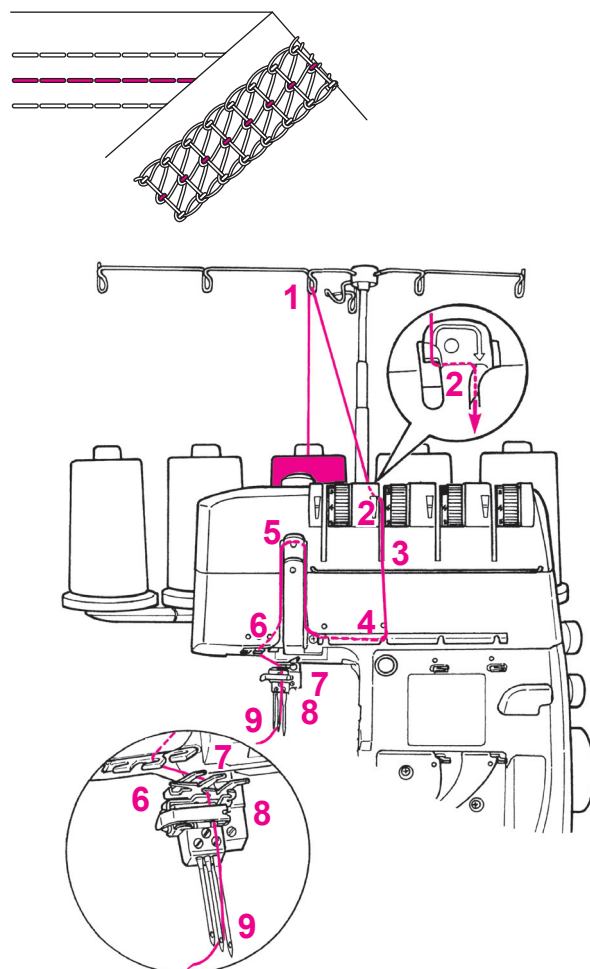
糸かけ順序 (3)

2. カバーステッチR針（右針）の糸通し（ピンク印）



- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー（ピンク印）の溝に入れます。
- (6) 糸案内（ピンク印）にかけます。
- (7, 8) 針棒糸案内にかけます。
- (9) 右針（R針）の針穴に、前から後に通します。
ピンセットを使うと便利です。
- (10) 針穴を通した糸を押えの下に入れます。

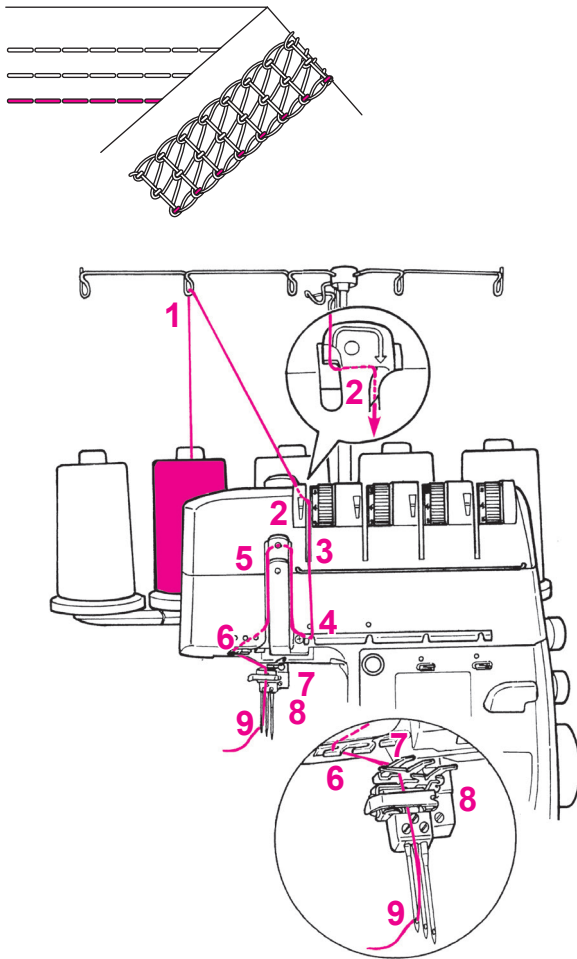
3. カバーステッチC針（中針）の糸通し（ピンク印）



- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー（ピンク印）の溝に入れます。
- (6) 糸案内（ピンク印）にかけます。
- (7, 8) 針棒糸案内にかけます。
- (9) 中針（C針）の針穴に、前から後に通します。
- (10) 針穴を通した糸を押えの下に入れます。

糸かけ順序 (4)

4. カバーステッチL針 (左針) の糸通し (ピンク印)



- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内にかけます。
- (2) 第1糸案内にかけます。
- (3) 溝に入れます。
- (4) 糸案内板の下に糸をかけます。
- (5) 天びんカバー (ピンク印) の溝に入れます。
- (6) 糸案内 (ピンク印) にかけます。
- (7, 8) 針棒糸案内にかけます。
- (9) 左針 (L針) の針穴に、前から後に通します。
ピンセットを使うと便利です。
- (10) 針穴を通した糸を押えの下に入れ、ルーパーカバーを閉じます。

* ルーパー糸を通しなおすときには、針糸を切って針穴から抜いてください。ルーパー糸を一番目に通して下さい。

標準糸調子

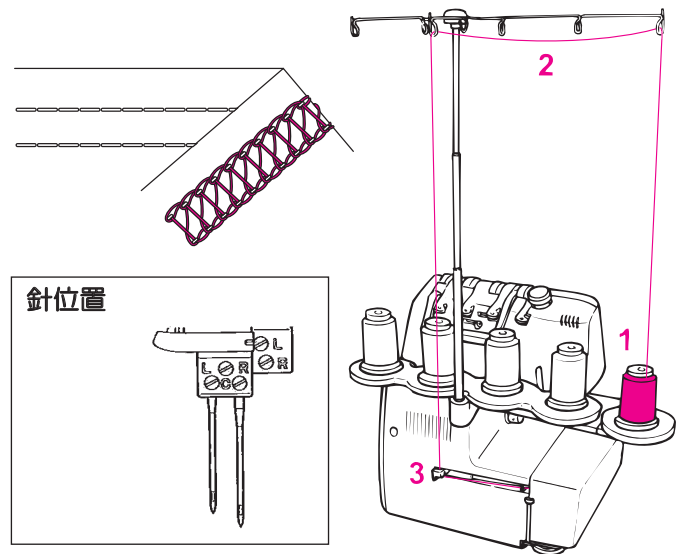
カバーステッチL針 (左針)	3~4
カバーステッチR針 (右針)	3.5~5
カバーステッチC針 (中針)	4.5~6
二重環ルーパー糸	M
縫い目の長さ	3

通常、上ルーパーに使用する糸調子を、カバーステッチR針の糸調子として使用するため、糸調子の標準設定値が変わります。

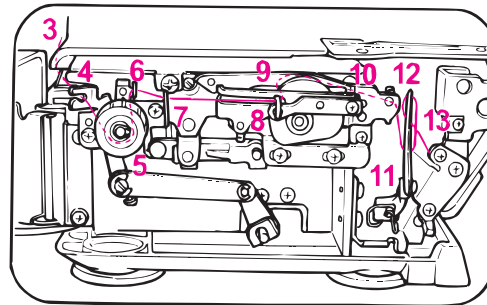
2本針カバーステッチ

1. 2本針幅広カバーステッチ (5mm幅)

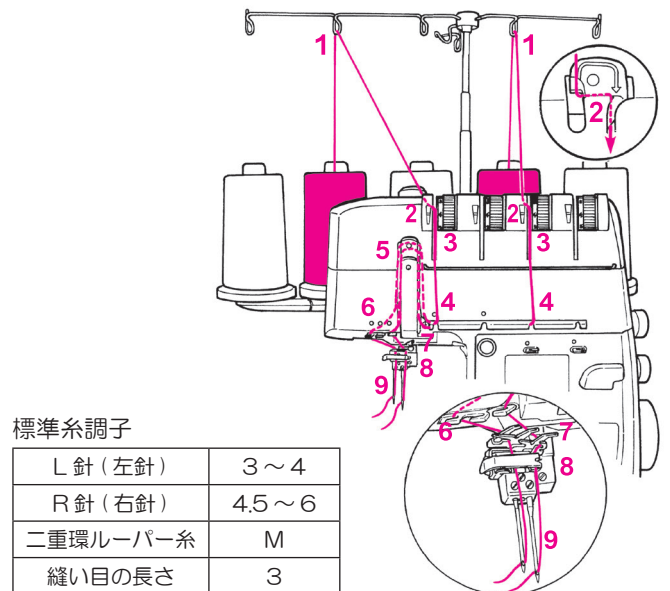
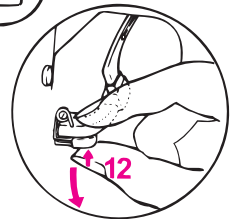
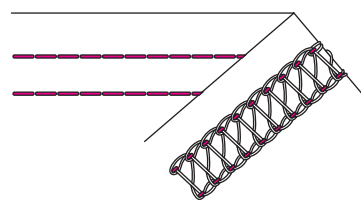
- ルーパーの糸かけ (紫印)
- カバーステッチR針 (右針) を使います。(ピンク)
- カバーステッチL針 (左針) を使います。(ピンク)



布台を開けます。



※ No.11 にはかけません。

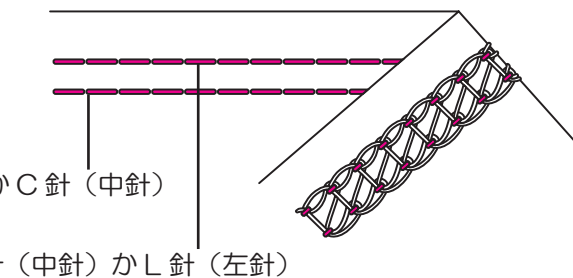
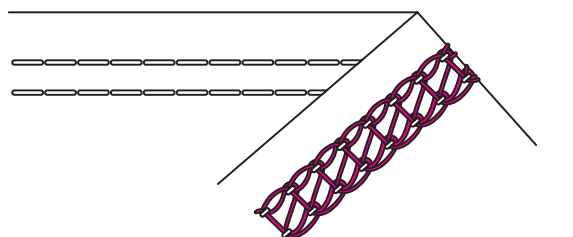
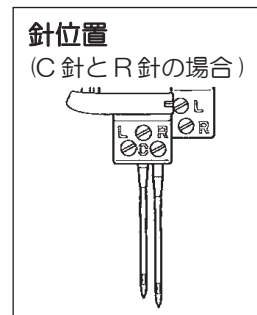
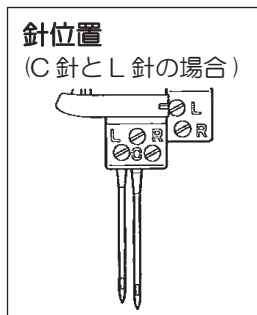
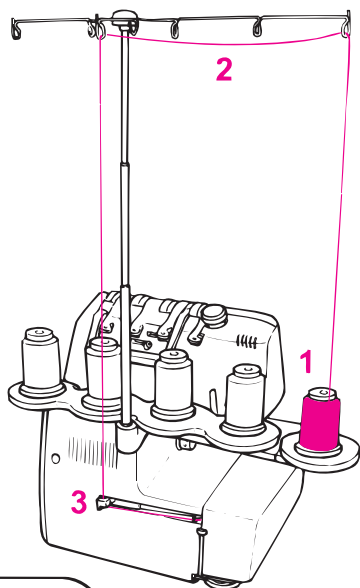


標準糸調子

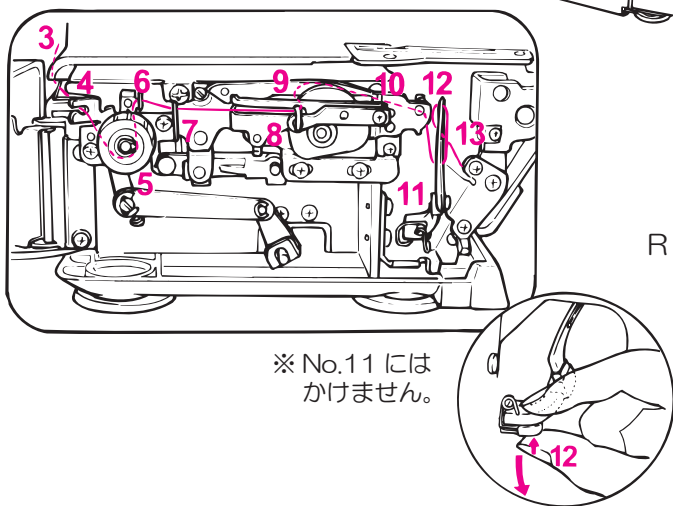
L針 (左針)	3~4
R針 (右針)	4.5~6
二重環ルーパー糸	M
縫い目の長さ	3

2. 2本針幅狭カバーステッチ (2.5 mm幅)

- ルーパーの糸かけ (紫印)
- カバーステッチC針 (中針) を使います。(ピンク印)
- カバーステッチRかL針 (右針か左針のどちらか) を使います。(ピンク印)

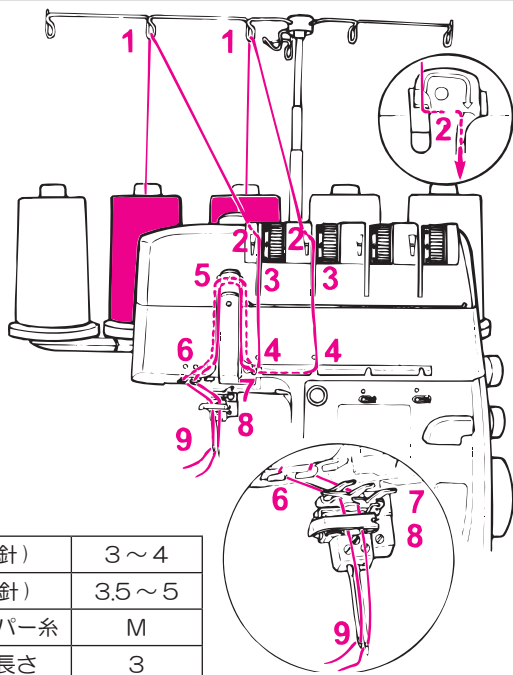


布台を開けます。



※ No.11 には
かけません。

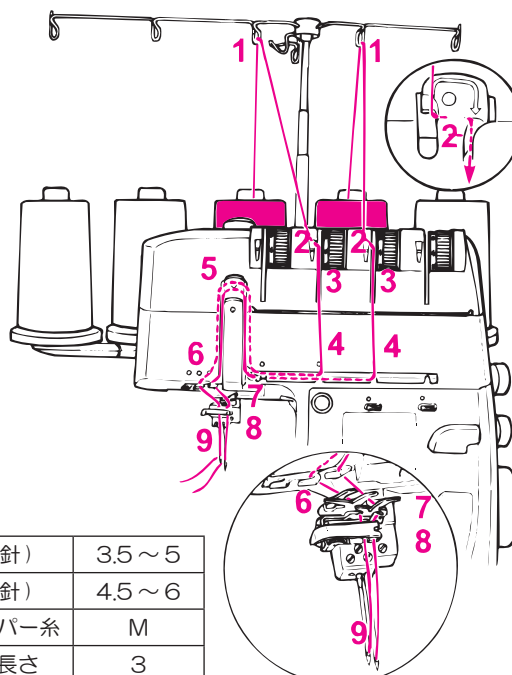
C針 (中針) L針 (左針) の場合



標準糸調子

L針 (左針)	3~4
C針 (中針)	3.5~5
二重環ルーパー糸	M
縫い目の長さ	3

C針 (中針) R針 (右針) の場合



標準糸調子

C針 (中針)	3.5~5
R針 (右針)	4.5~6
二重環ルーパー糸	M
縫い目の長さ	3

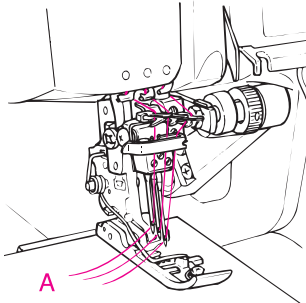
■ 糸掛けが終わったら、ためし縫いをしてみましょう。

二枚合わせの布地を使い、縫い目や糸調子が正しいかどうか調べます。

カバーステッチは空環が出ないため、布地のないところでは、縫わないようにご注意ください。

1. 縫い始め

- (1) 電源スイッチを入れます。
- (2) 送り調節つまみを「3～4」に差動調節つまみをNの位置にセットします。
- (3) 押えを上げて、布を押えと針の下にセットします。(A)

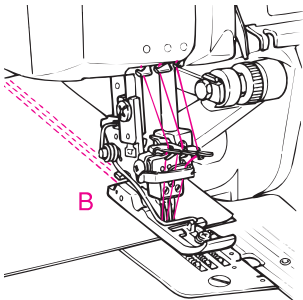


注意： このとき必ず押えの下の奥まで布を入れます。

- (4) 押えを下げます。
- (5) 1針目は、はずみ車を手前側に回します。
- (6) スタートさせます。
- (7) 布・糸の組み合わせによって、糸調子ダイヤルの数値は変化しますので、正しい縫い目を参照しながら、糸調子ダイヤルを調節します。

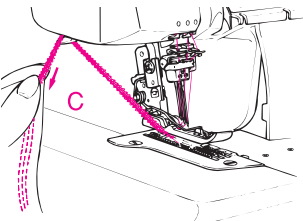
2. 縫い終わり

- (1) この縫い目では空環は出ませんので、布端をオーバーランしない（越えない）ように注意してミシンを停止します。
- (2) 縫い終わったとき、針の高さが一番低くなるまではずみ車を手前側に回します。
- (3) その後、針が一番高い位置に来るまで、はずみ車を逆回転（後側向き）させます。（側面カバーについている矢印と反対方向）(B)
このときに、初めて、針糸がルーパーから外れて布が外せるようになります。
- (4) 押えを上げます。
- (5) 布地を注意して、押えの左側に引っぱり出します。



3. 糸の切断

カバーステッチの場合：
縫いおわりとき、押えを上げて引き出した糸は、面部カッターにかけて切ります。(C)

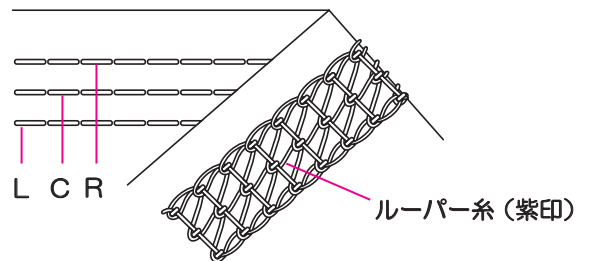


■ 糸調子の調整の仕方

不完全な縫い目は糸調子ダイヤル目盛（1～9）とルーパー糸調子調節つまみを調節するだけで修正出来ます。

＜カバーステッチの場合＞

- 右針糸が布の裏側で浮いている場合：
カバーステッチ右針（R針）を強くします。（ピンク印）
このときの糸は、上ルーパーの糸調子ダイヤルに通っています。
- 中針糸が布の裏側で浮いている場合：
カバーステッチ中針（C針）を強くします。（ピンク印）
このときの糸は、右針の糸調子ダイヤルに通っています。
- 左針糸が布の裏側で浮いている場合：
カバーステッチ左針（L針）を強くします。（ピンク印）
このときの糸は、左針の糸調子ダイヤルに通っています。
- ルーパー糸が布の裏側で緩んだりしていた場合：
ルーパーテンションを強くします。（糸調子ダイヤルは布台の中：紫印）

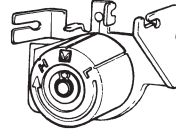
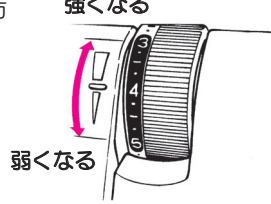


- **ルーパー糸調子調節つまみ**

 - 標準的な糸調子は、【M】にします。
 - 強くする為には、【H】にします。
 - 弱くする為には、【L】にします。

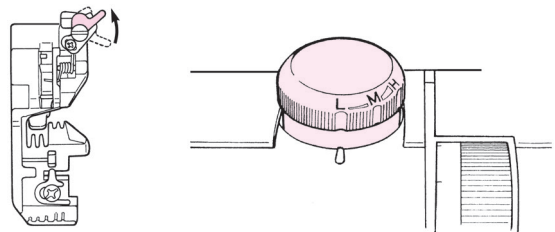
(M,H,Lの範囲を超えて矢印と反対方向へ無理に回すと壊れる可能性があります)
- **糸調子ダイヤル**

 - 上に回すと糸調子が強くなり、下にすると弱くなります。

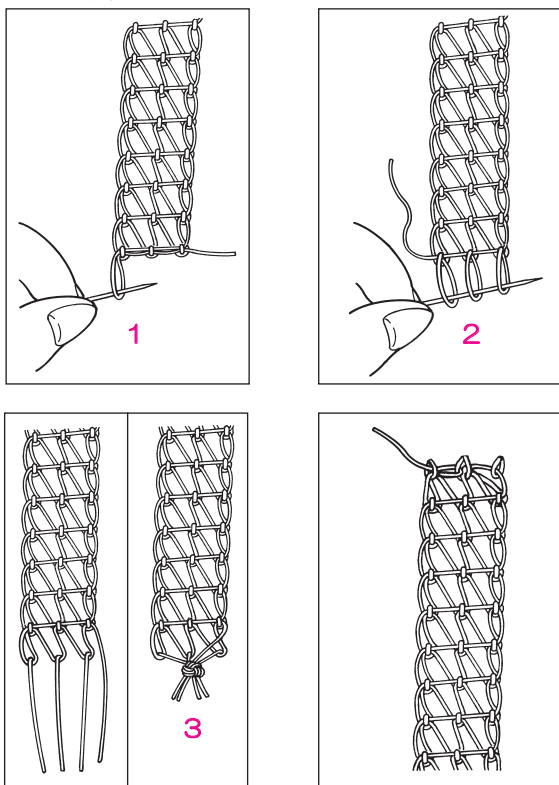
■ 糸調子の調整の仕方

カバーステッチで、水着やスポーツウェアなど、布によれ易い生地を縫うとき、押えのレバーを後ろ側に押します。同時に押え圧調整も【L】にします。通常は、押えのレバーは手前側にしておいてください。



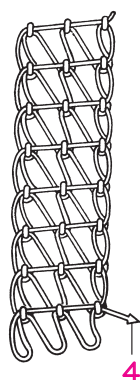
■ 縫い終りの糸の始末

1. 図中 (1) の輪になっているルーパー糸を左側に引っ張りまします。
 2. ルーパー糸を上側に抜き、針糸 (右・左・中共に) を引っ張り出します。
 3. 結びます。
- * 縫い始めについては、自動的に次の縫い目でしっかりと締められます。



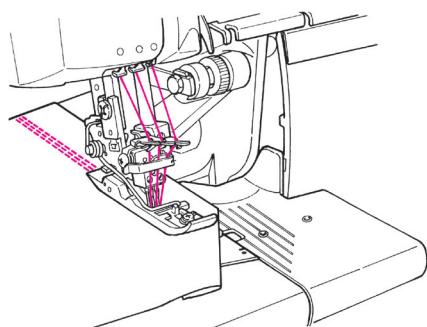
■ 縫い目をほどこきたい場合

1. この縫い目は、縫い終わり側のルーパー糸 (4) を引っ張ることによってほどこけます。
2. この後、表側から針糸を引っ張れば、針糸は抜けます。



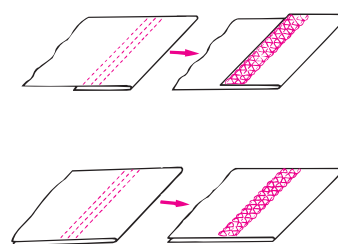
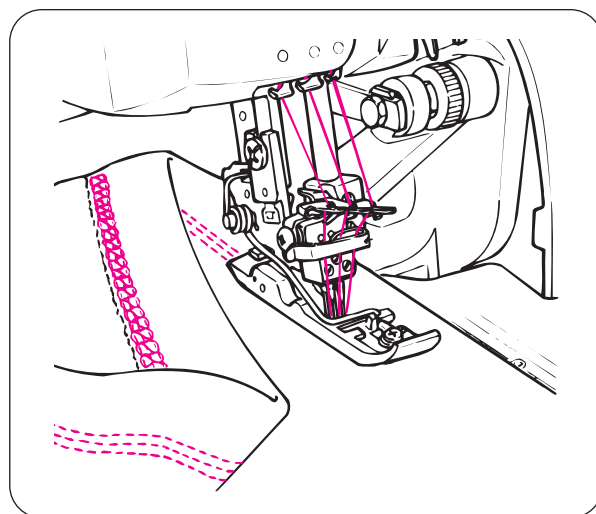
■ 補助ベットのガイド線について

補助ベットのガイド線は、布端からの一定の寸法で縫うときに使います。



1. すそ上げ

この縫い方では、すそ上げが出来ると同時に、裏側の布端も縫い目で押え込まれます。必要ならば、余分な縫い代は、縫い目の近くで切ることが出来ます。

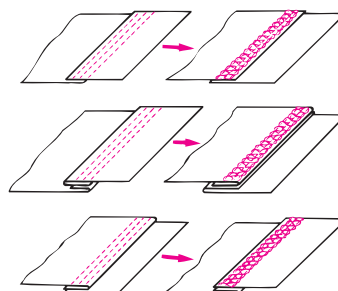
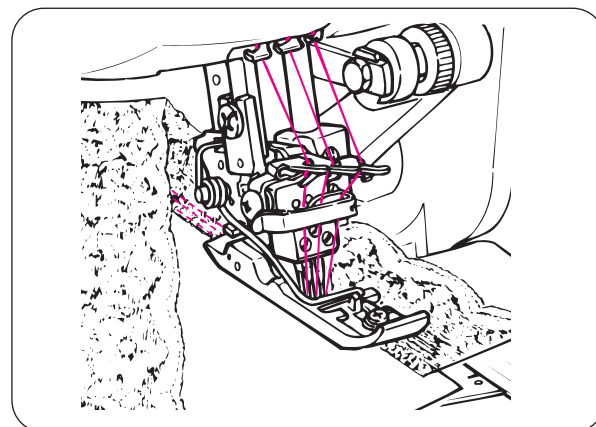


縫い目の長さ：3～4mm

- ① すそ上げ部分したい幅をマークし、布を折り込みます。
- ② 布地を押えの下に置き、補助ベットあるいは針板のラインにそって、布をガイドしながら送ります。

2. レース付け

ゴムやレースを縫うとき、それらを布地の上に置き、縫い代の上を縫うと裏側の布端も縫い目で押え込まれます。



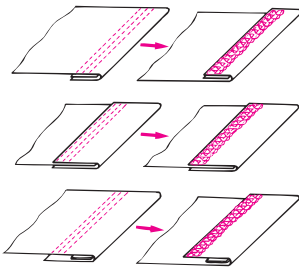
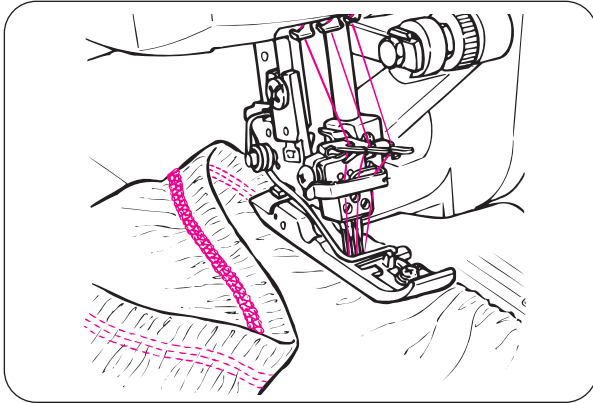
縫い目の長さ：3～4mm

- ① 縫い代をマークします。
- ② 上の布地の端を折り込みます。
- ③ 上と下の布端を重ねます。
- ④ 押えのガイドに従って、布地の端をガイドします。

使用例 (2)

3. ゴムテープ付け

カバーステッチは、弾力性と耐久性があり、引っ張っても元に戻りますので水着、トレーニングウェア、子供服、スカート、ズボンの腰バンドに向いています。

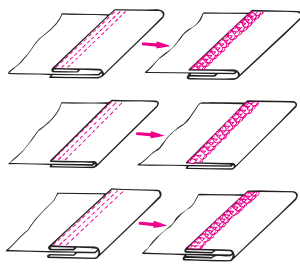
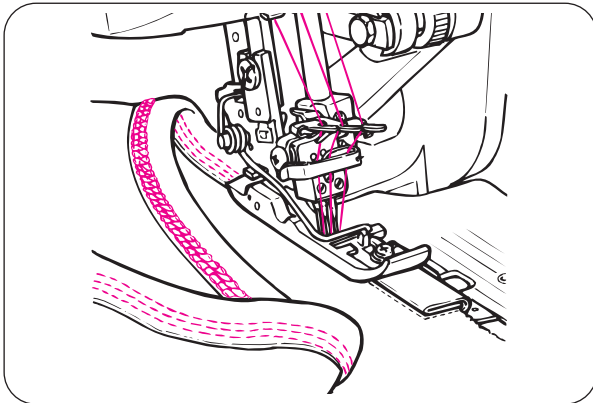


縫い目の長さ：3～4mm

- ① ゴムの幅に、布を下側に回り込ませます
- ② 表側からカバーステッチで縫います。
- ③ 押えの右端に沿って折り目をガイドします。(ゴムも布と同時に縫い込みます)

バリエーション：
ゴムの幅より大きく布を下側に折り込み、ゴムをその内側に入れ込んでしまいます。ゴムを縫い込まずに、布端をカバーステッチで縫うことができます。

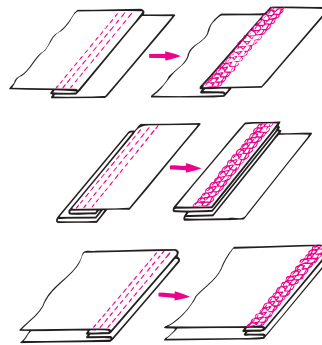
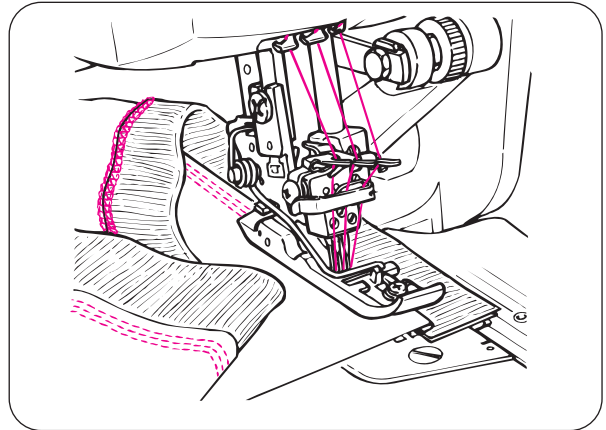
4. 三ツ巻縫い



縫い目の長さ：3～4mm

- ① 必要な幅に、バイアステープや布地を切っておきます。
- ② 必要な幅にマークを付け、折り込みます。
- ③ 折り込んだテープを布端に沿ってガイドします。(はさみ込みます)
- ④ はさみこんだテープの左端を、押えの左側のガイドにそわせて縫います。
- ⑤ このとき、裏側の布端は、縫い目で押え込まれます。必要ならば、余分な縫い代は、縫い目の近くまでカット出来ます。

5. リブ付け・伏せ縫い



縫い目の長さ：3～4mm

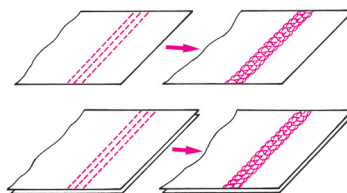
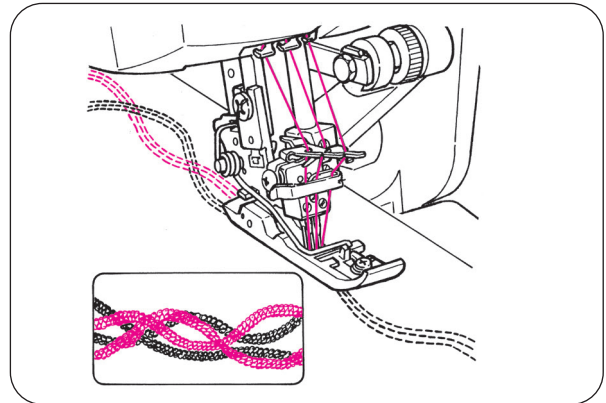
リブ付けの場合

- ① 布を折り込みます。
- ② 折り込んだ布端とリブを合わせます。
- ③ 押えの右側ガイドに沿って布端を縫います。

伏せ縫いの場合

- ① リブと布をオーバーロックで縫い合わせます。
- ② その縫い目の部分を開きます。
- ③ 押えの右側ガイドに沿って縫います。
- ④ このとき、オーバーロックの縫い目は、カバーステッチの縫い目で押え込まれます。

6. 飾り縫い



縫い目の長さ：3～4mm

- ① 布の裏側から縫って、表側が使えるように縫います。
- ② ルーバー糸に飾り糸を使うと効果が大きくなります

注意：2枚合わせの布でしっかりした布に縫って下さい。縫った後、不必要な布は取り除きます。

チェーンステッチ

■ チェーンステッチとは

二重環ルーパー系と1本の針糸から成り立ちます。
 ・ 針糸は直線として布の表側に出てきます。

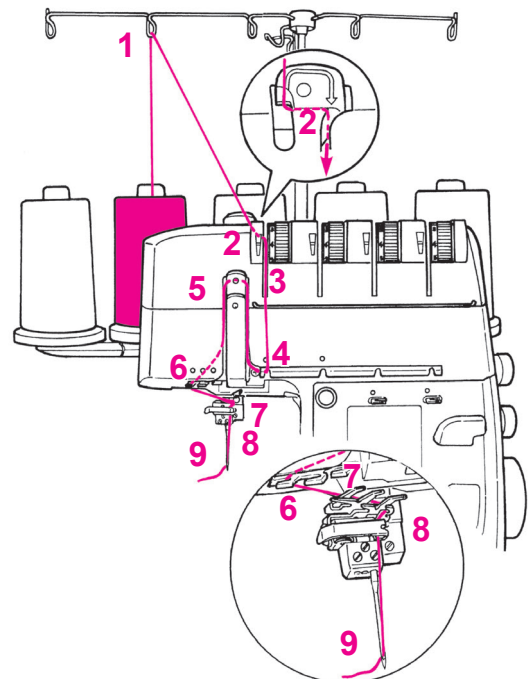
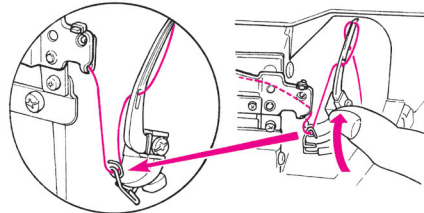
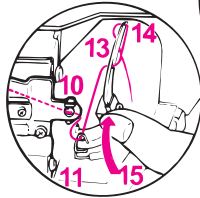
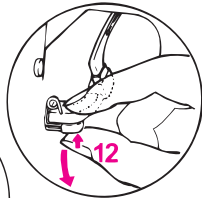
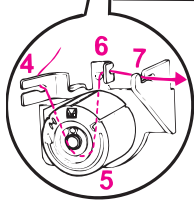
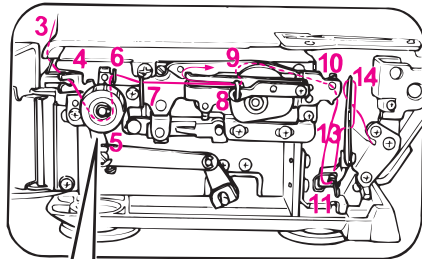
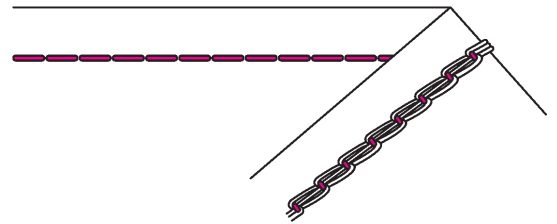
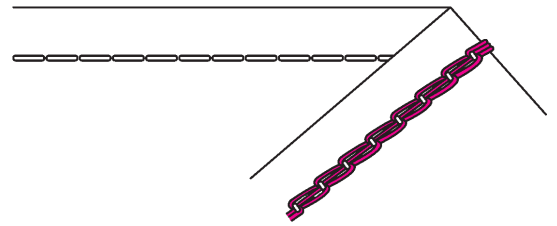
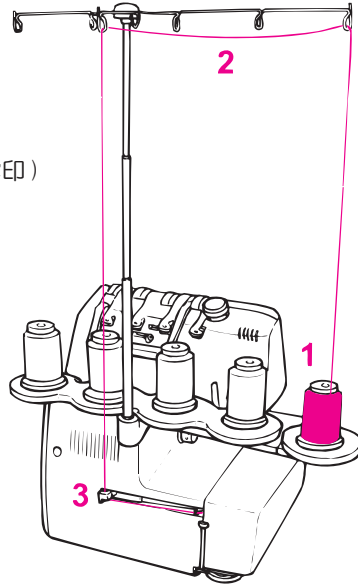
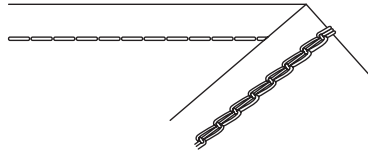
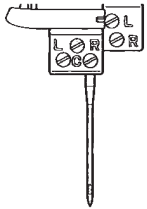
■ 準備

1. 上ルーパーを解除します。
 2. 上メスを解除します。
 3. 補助ヘッドを取り付けます。
- ※ 20～21 ページ参照

■ 糸かけ順序

1. 二重環ルーパーに糸を通します。(紫印)
18 ページ参照
2. R 針に糸を通します。
19 ページ参照

針位置



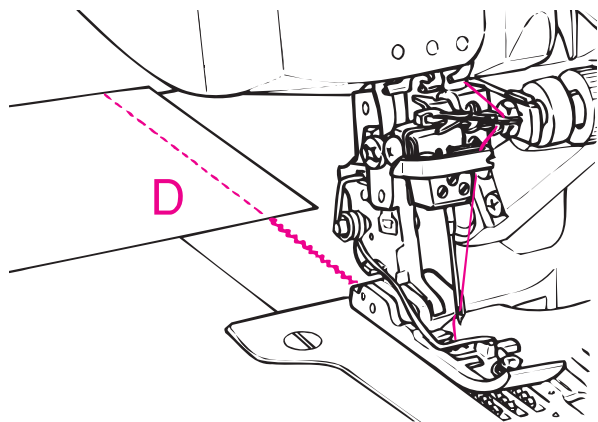
標準糸調子

R 針 (右針)	3～5
二重環ルーパー系	M
縫い目の長さ	2.5

■ 糸かけが終わったら、ためし縫いをしてみましょう！

二枚合わせの布地を使い、縫い目や糸調子が正しいかどうか、調べます。

空環が出ますので通常のオーバーロックと同じように後ろ側に引っ張って抜いてください。(D)



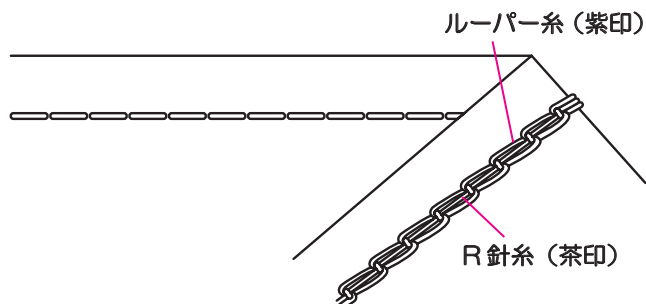
糸調子の調整

■ 糸調子の調整の仕方

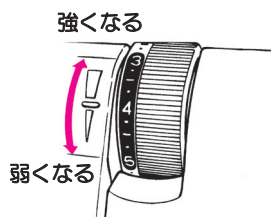
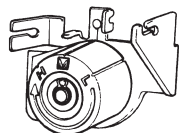
不完全な縫い目は糸調子ダイヤル目盛（1～9）とルーパー糸調子調節つまみを調節するだけで修正出来ます。

<カバーステッチの場合>

- 針糸が布の裏側で浮いている場合：
カバーステッチ R 針（右針）を強くします。（茶印）
このときの糸は、左針の糸調子ダイヤルに通っています。
- ルーパー糸が布の裏側でゆるんだりしていた場合：
ルーパーテンションを強くします。（糸調子ダイヤルは
布台の中：紫印）

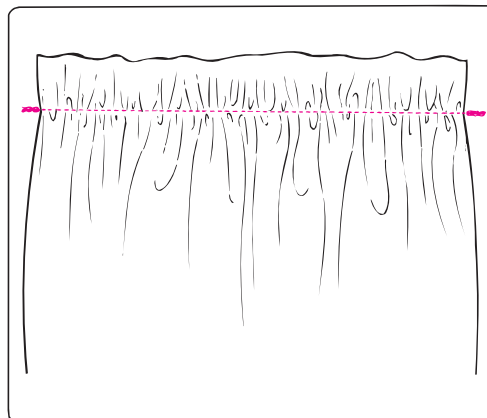


- ルーパー糸調子調節つまみ
- 標準的な糸調子は、【M】にします。
- 強くする為には、【H】にします。
- 弱くする為には、【L】にします。
- （M,H,L の範囲を超えて矢印と反対方向へ無理に回すと壊れる可能性があります）
- 糸調子ダイヤル
- 上に回すと糸調子が強くなり、下にすると弱くなります。



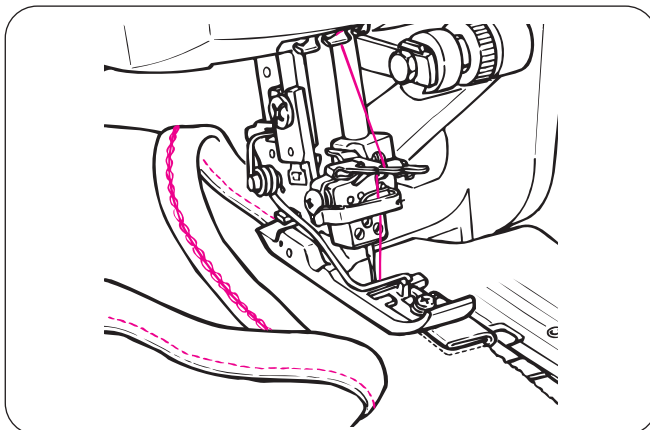
1. チェーンステッチによるギャザリング

一枚の布をチェーンステッチと差動調節によって縫えます。



差動調節：2
送り調節：4

2. チェーンステッチによるバイアステープ付け



縫い目の長さ：3～4mm

バイアステープで布端を包み込み、縫います。

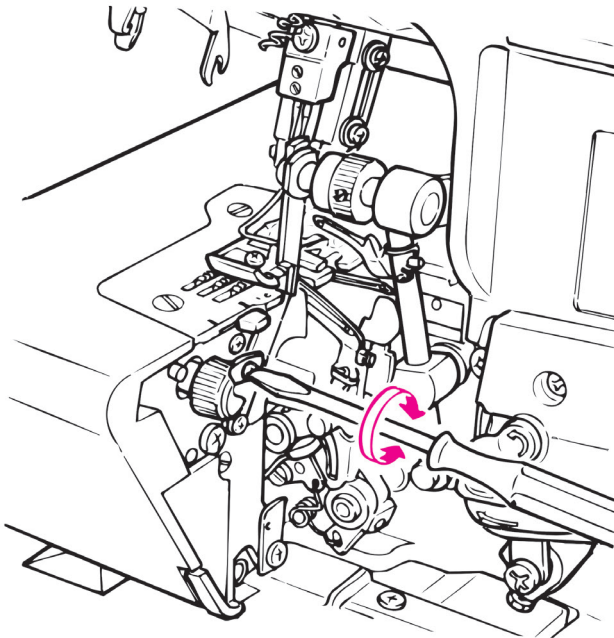
上メス、下メスの交換

■ 上メスの交換

上メスは特殊超硬材を使用していますので、普通は交換する必要はありませんが、刃先がかけたとき交換します。そのときは、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。

注意 メス交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。

1. はずみ車を手前に回し、針を一番上にします。
2. 上メスを解除します。
3. ドライバーで下メス押え板止めネジをゆるめ、下メスを取りはずします。
4. 新しい下メスを下メスホルダーの溝に入れ、上下調節器にあてます。(下メスの刃先が針板上面と同じ高さになります。)
5. 最後に下メス押え板止めネジを強くしめて、固定します。



掃除と注油

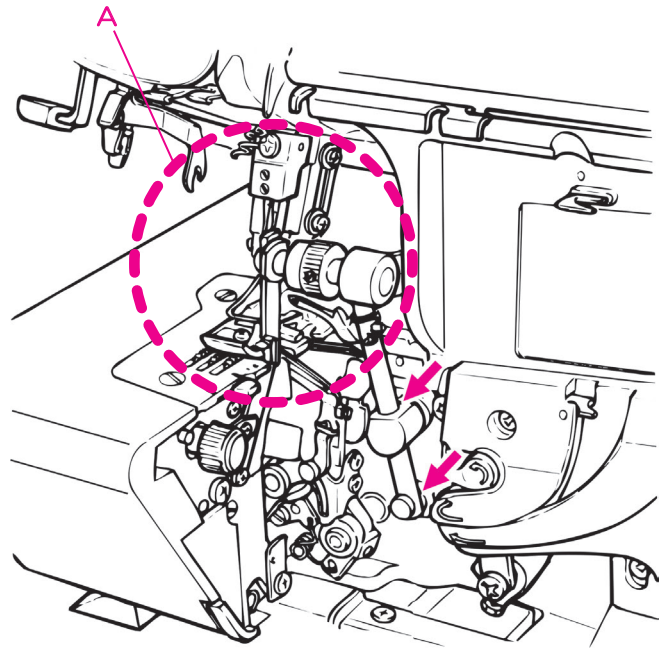
■ 掃除と注油

注意 掃除、注油のときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜き電源を切ってください。

ミシンをご使用になりますと、綿ぼこりがたまりますので定期的にとり除きます。

針板と下メスのまわりには、綿ぼこりがたまりやすいので、定期的に取り除いてください。(A)

このミシンには重要な部分に特殊材料を使用していますが図示したところへミシン油を1～2滴注油してください。



注意：

- 炎症、かぶれを防ぐため目や身体に油が付着したときは直ちに洗浄してください。
- 下痢、嘔吐を防ぐため誤って飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。
- 子供の手の届かないところに置いてください。
- 油の廃棄は法令で義務付けられていますので、それに従い適正に廃棄してください。

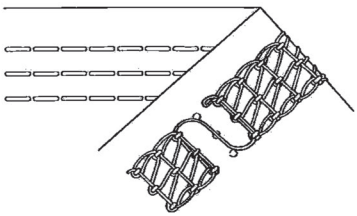
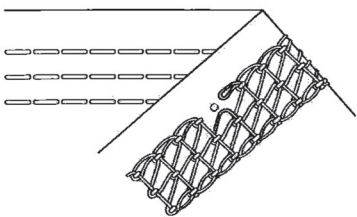
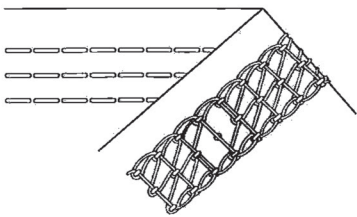
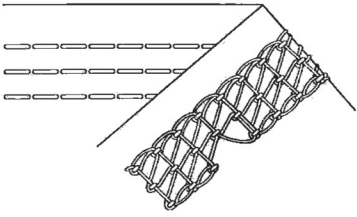
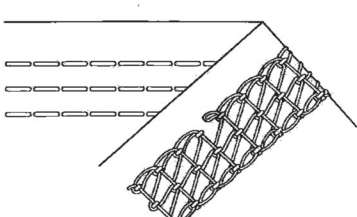
サービスをお申し付けになる前に

次のような場合は故障ではありません。サービスをお申し付けになる前に、もう一度お確かめください。

	現象	原因（理由）	処置方法	ページ
オーバーステッチの場合	布地を送らない場合	①押えの圧力が弱すぎるとき。	・押え圧調節つまみを右へ回し、押え圧力を強くします。	8
	針が折れる場合	①針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 ②針のとりつけ方が悪いとき。 ③布地を無理にひっぱったとき。	・新しい針にとりかえます。 ・正しくとりつけます。 ・縫っているときは布端に手をそえるだけにします。	9 9 -
	糸が切れる場合	①糸のかけ方がまちがっているとき。 ②糸調子が強すぎるとき。 ③針のとりつけ方が悪いとき。	・正しくかけなおします。 ・糸調子を弱くします。 ・正しくとりつけます。	9,10,11 12,13 9
	目とびがする場合	①針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 ②針のとりつけ方が不完全なとき。 ③糸のかけ方がまちがっているとき。	・新しい針にとりかえます。 ・正しくとりつけます。 ・正しくかけなおします。	9 9 9,10,11
	縫い目の調子が悪い場合	①糸調子が不完全なとき。	・正しい糸調子になおします。	12,13
	縫いシワがよる場合	①針糸調子が強すぎるとき。 ②糸のかけ方がまちがっていたり、必要以外の場所に糸がからんでいるとき。 ③差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。	・針糸調子ダイヤルの目盛を小さい方へ合わせます。 ・正しくかけなおします。 ・目盛を正しく合わせます。	12,13 9,10,11 14
	縫った後の布端がカールする場合	①針糸調子が強すぎるとき。	・糸調子を弱くします。	12,13
カバーステッチの場合	布地を送らない場合	①押えの圧力が弱すぎる。	・押え圧調節つまみを右へ回し、押え圧力を強くします。	8
	糸が切れる場合	①糸掛けが間違っているとき。 ②糸調子が強すぎるとき。 ③針の取り付け方が悪いとき。 ④正常な針が使われていないとき。	・正しくかけ直します。 ・糸調子を弱くします。 ・針の平らな面を後側にして、一番奥まで挿入します。 ・シュメツ家庭用針（130/705H）を使います。	21-23 25 9 9
	針が折れる場合	①針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 ②針の取り付け方が悪いとき。 ③縫っている最中に無理に引っ張ったとき。	・新しい針に取り替えます。 ・針の平らな面を後側にして、一番奥まで挿入します。 ・布はていねいに両手でガイドします。	9 9 -
	目飛びがする場合	30 ページ参照	30 ページ参照	-
	縫い目の調子が悪い場合	①糸調子が不完全なとき。 ②糸が引っかかるとき。	・糸が糸調子ダイヤルの皿の間にきちんと入っているかどうか確認します。 ・3本の糸の糸通しが間違っていないかどうか確認します。	- 21-23
	縫い目（縫った物）が伸びてしまったり波打っている場合	①縫い中に布が引っ張られたとき。 ②押え圧が強すぎるとき。 ③差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。	・縫い中に布をひっぱったりせずに丁寧に布をガイドします。 ・押え圧を弱くします。 ・押え圧解除レバーを後ろにします。 ・目盛を正しく合わせます。N~2	- 8 25 14
	縫い目（縫った物）が縮んでしまっている場合	①針糸調子が強すぎるとき。 ②差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。	・糸調子を弱くします。 ・目盛を正しく合わせます。0.7~N	25 14
共通	モーターの故障	①雑音がする。 ②モーターが全然回らない。 ③火花が異常に大きい。	・カーボンブラシを交換します。 (注)カーボンブラシの交換はお買い上げの販売店に依頼してください。	-

上記の方法でも治らないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

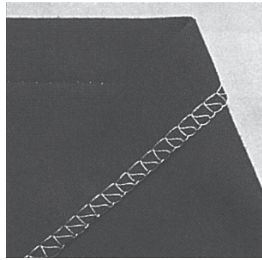
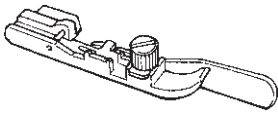
目飛びがする場合

現象	原因（理由）		処置方法
<p>カバーステッチR, C, L 針の目飛び</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 二重環ルーバーが針系 (R,C,L) のループをすくわなかったとき。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 針の糸調子がきつくないですか。 ② 針系の糸かけは正しいですか。 ③ 針が曲っていたり、針先がつぶれていませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 糸調子を弱めに調整します。 • 正しくかけ直します。 • 新しい針に取り替えます。
<p>カバーステッチR針（右針）の目飛び</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 二重環ルーバーがR針系のループをすくわなかったとき。 		
<p>カバーステッチC針（中針）の目飛び</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 二重環ルーバーがC針系のループをすくわなかったとき。 		
<p>カバーステッチL針（左針）の目飛び</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 二重環ルーバーがL針系のループをすくわなかったとき。 		
<p>カバーステッチR針（右針）の目飛び</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • R針が二重環ルーバー系の形成する三角形のエリアに針落ちなかったとき。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 二重環ルーバーの糸通しは正しいですか。 ② 針系の糸調子が緩くないですか。（布裏で針糸が浮いていませんか） ③ 二重環ルーバーの糸調子が緩くないですか。 ④ 送り目盛が「3」より小さくなっていませんか。 ⑤ 針系の糸かけは正しいですか。 ⑥ 針が曲っていたり、針先がつぶれていませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 正しくかけ直します。 • 糸調子を強めに調整します。 • 糸調子を強めに調整します。 • 送り目盛を「3」以上にします。 • 正しくかけ直します。 • 新しい針に取り替えます。

■ 別売付属品

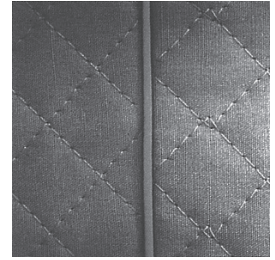
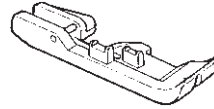
● ブラインドステッチ押え

スカート、ズボンの裾、
Tシャツの袖口、裾の処理に！



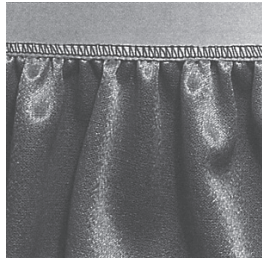
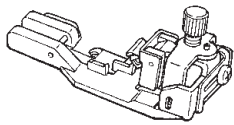
● パイピング押え

トレーナーのアクセントや
バックのコーナーに！



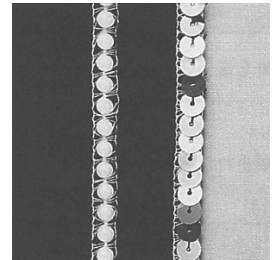
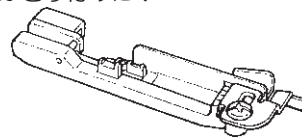
● ゴムテープ付け押え

水着、レオタード、
衣服のゴム入れに！



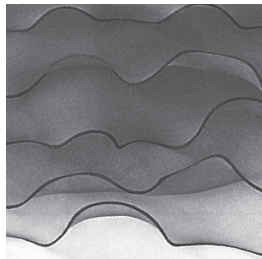
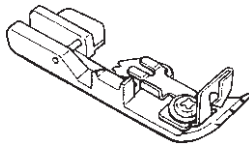
● パール付け押え

ドレスやブラウスの
かざり付けに！



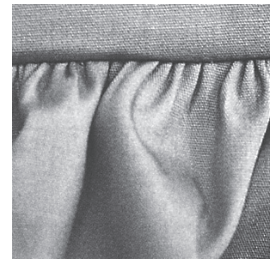
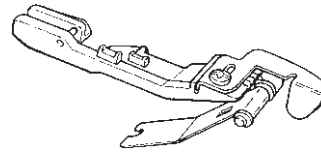
● コーディング押え

ドレスの裾、ブラウスの衿、
形くずれ防止に！



● ギャザリング押え

スカートやブラウスの肩の
ギャザリングに！



別売品のお求めは、お買い上げ販売店にご相談ください。

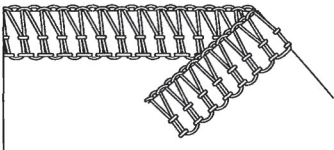
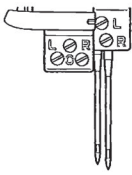
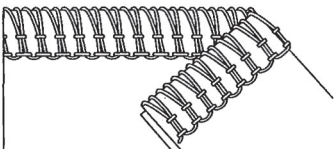
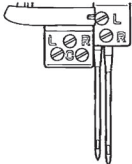
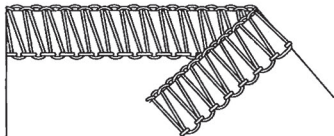
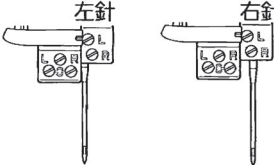
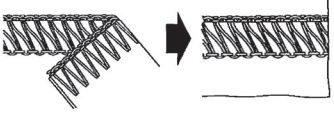
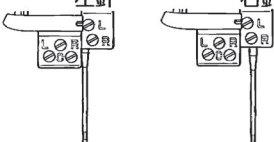
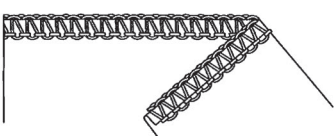
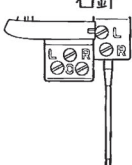
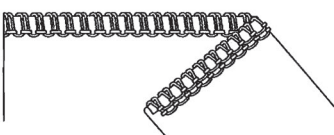
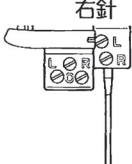
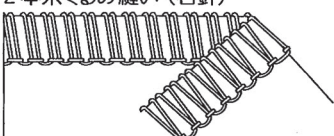
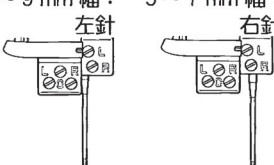
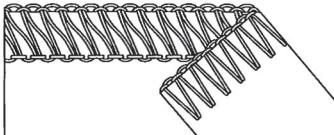
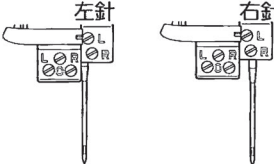
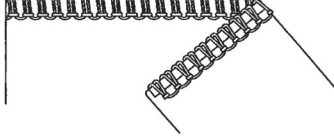
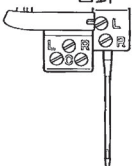
■ 仕様表

項目	仕様
縫い目	カバーステッチ 3本針4本糸：針幅5mm：4本糸 2本針3本糸：針幅2.5mm幅：3本糸 チェーンステッチ 二重環単独縫い：2本糸 1本針3本糸+チェーンステッチ：5本糸 1本針2本糸+チェーンステッチ：4本糸 2本針4本糸：4本糸 1本針3本糸：3本糸 1本針2本糸：2本糸
使用針	シユメツツ家庭用針 130x705Hタイプ (15x1H) # 12, # 14 5~7mm (2本糸・3本糸オーバーロック) 7~9mm (4本糸・3本糸・2本糸オーバーロック)
かがり幅	10~11mm (2/3本糸オーバーロック+チェーンステッチ) 巻き縫い：2mm カバーステッチ：2.5/5mm

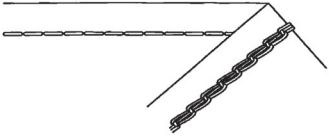
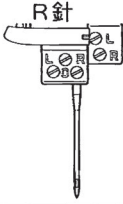
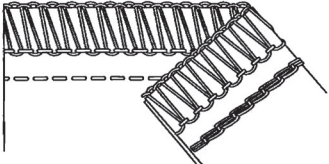
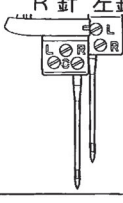
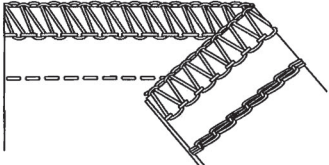
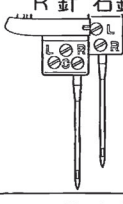
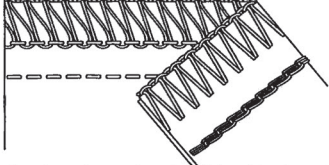

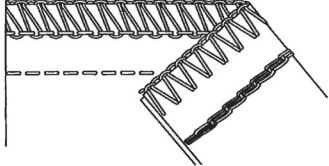
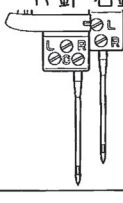
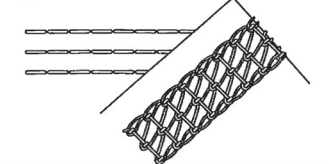
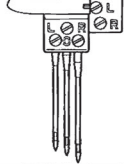
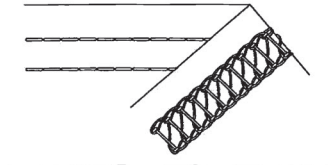
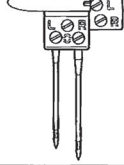
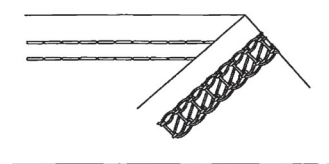
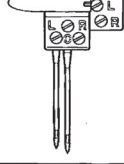
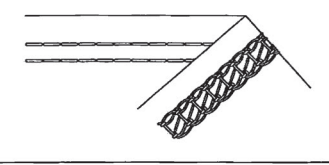
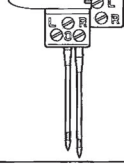
項目	仕様
縫い目の長さ (送り量)	1~4mm (標準オーバーロック2.5mm カバーステッチ3.0mm)
差動送り比	0.7~N (1)~2.0
押え上げ量	6mm
縫い速度	最大1,500針/分
ミシンの大きさ	幅315 x 奥行285 x 高さ370mm
重量	8kg
定格電圧 / 消費電力	100V / 100W 50/60HZ

ステッチ一覧表

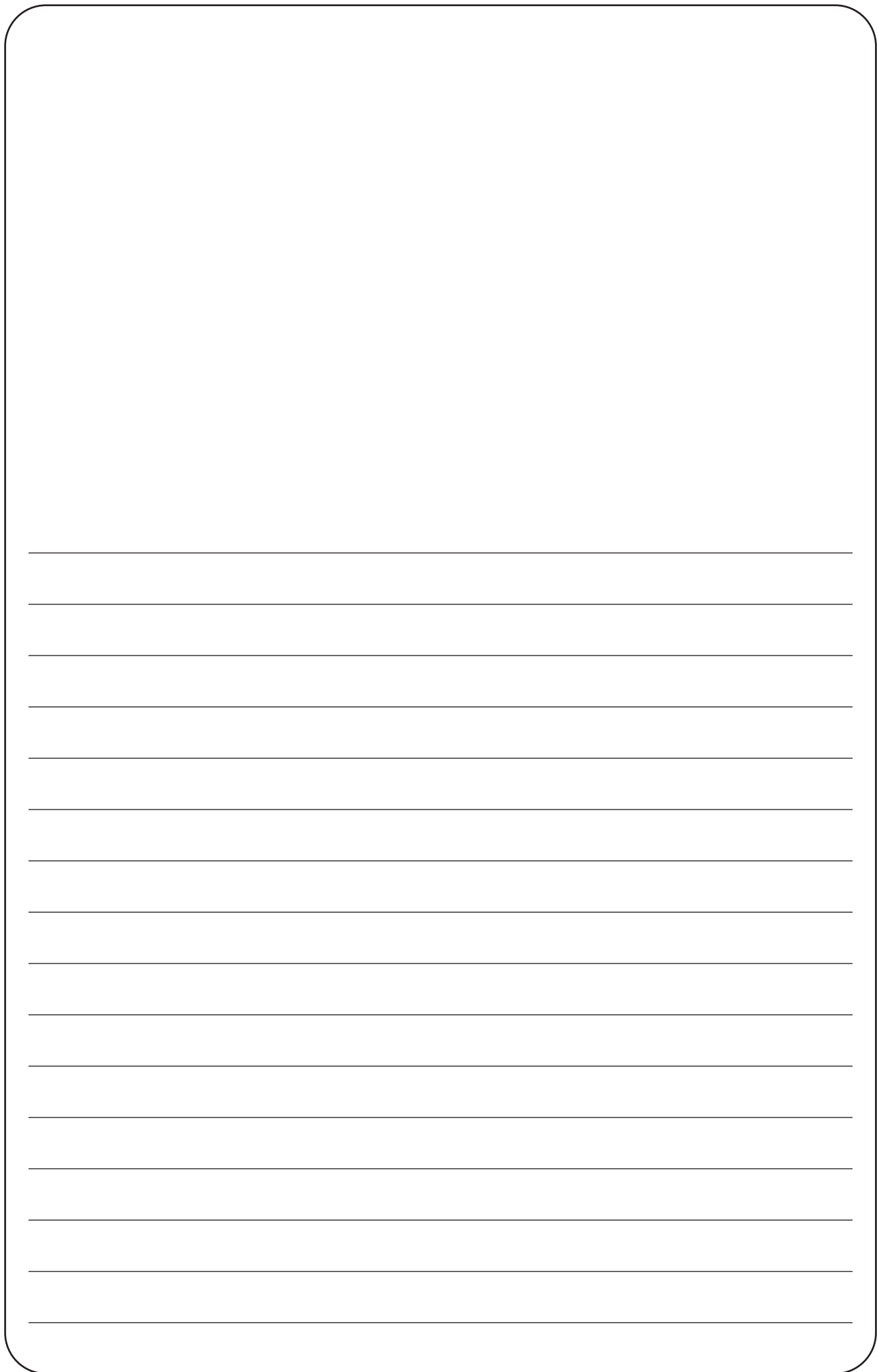
※下記糸調子ダイヤルの目盛りは、目安です。糸の種類や布の種類によって異なります。

ステッチ仕様	使用する針	糸調子ダイヤルの目盛り	各調節つまみ
4本系合わせふちかがり縫い 	7~9 mm 幅 左右針 	左針系(黄) : 3~5 右針系(緑) : 3~5 上ルーバー系(青) : 3~5 下ルーバー系(赤) : 3~5	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~2.5
3本系スーパーストレッチ縫い 	7~9 mm 幅 左右針 	左針系(黄) : 3.5~5.5 右針系(緑) : 3~5 下ルーバー系(赤) : 2~4 ※下ルーバー系に飾り用ウーリー糸を使用した場合	送り量(ぬい目の長さ) : 2~2.5 メス幅 : 1~2
3本系かがり縫い(左針) 3本系かがり縫い(右針) 	7~9 mm 幅 : 5~7 mm 幅 : 左針 右針 	左針系(黄) : 3~5 右針系(緑) : 3~5 上ルーバー系(青) : 3~5 下ルーバー系(赤) : 3~5	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~2.5
3本系飾り縫い(開き縫い)(左針) 3本系飾り縫い(開き縫い)(右針) 	7~9 mm 幅 : 5~7 mm 幅 : 左針 右針 	左針系(黄) : 1~2.5 右針系(緑) : 1~2.5 上ルーバー系(青) : 1~3 下ルーバー系(赤) : 6~9 ※上ルーバー系に飾り用太糸を使用した場合	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~2
3本系細ロック縫い 	1.8~2.2 mm 幅 右針 	右針系(緑) : 3~5 上ルーバー系(青) : 4~6 下ルーバー系(赤) : 3~5	送り量(ぬい目の長さ) : 1~1.5 メス幅 : 1~1.5
3本系全巻き縫い 	1.8~2.2 mm 幅 右針 	右針系(緑) : 3~5 上ルーバー系(青) : 4~6 下ルーバー系(赤) : 6~8	送り量(ぬい目の長さ) : 1~1.5 メス幅 : 1~1.5
2本系くすみ縫い(左針) 2本系くすみ縫い(右針) 	7~9 mm 幅 : 5~7 mm 幅 : 左針 右針 	左針系(黄) : 4~6 右針系(緑) : 4~6 下ルーバー系(赤) : 3~5	送り量(ぬい目の長さ) : 1.5~2.5 メス幅 : 1~2
2本系かがり縫い(左針) 2本系かがり縫い(右針) 	7~9 mm 幅 : 5~7 mm 幅 : 左針 右針 	左針系(黄) : 1~3 右針系(緑) : 1~3 下ルーバー系(赤) : 4~6	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~2.5
2本系全巻き縫い 	1.8~2.2 mm 幅 右針 	右針系(緑) : 3~6 下ルーバー系(赤) : 3~6	送り量(ぬい目の長さ) : 1~1.8 メス幅 : 1~1.5

※下記糸調子ダイヤルの目盛りは、目安です。糸の種類や布の種類によって異なります。

ステッチ仕様	使用する針	糸調子ダイヤルの目盛り	各調節つまみ
チェーンステッチ 	R針 	R針系(茶) : 3~5 二重環ルーパー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5
1本針3本糸+チェーンステッチ(左針) 	R針 左針 	R針系(茶) : 3~5 左針系(黄) : 3~5 上ルーパー系(青) : 3~5 下ルーパー系(赤) : 3~5 二重環ルーパー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~2
1本針3本糸+チェーンステッチ(右針) 	R針 右針 	R針系(茶) : 3~5 右針系(緑) : 3~5 上ルーパー系(青) : 3~5 下ルーパー系(赤) : 3~5 二重環ルーパー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~3
1本針2本糸+チェーンステッチ(左針) 	R針 左針 	R針系(茶) : 3~5 左針系(黄) : 1~3 下ルーパー系(赤) : 4~6 二重環ルーパー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~2
1本針2本糸+チェーンステッチ(右針) 	R針 右針 	R針系(茶) : 3~5 右針系(緑) : 1~3 下ルーパー系(赤) : 4~6 二重環ルーパー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 2.5 メス幅 : 1~3
3本針4本糸カバーステッチ 	カバーステッチL,C,R針 5mm幅 	L針系(ピンク) : 3~4 C針系(ピンク) : 3.5~5 R針系(ピンク) : 4.5~6 二重環ルーパー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 3
2本針3本糸カバーステッチ(L,R) 	カバーステッチL,R針 5mm幅 	L針系(ピンク) : 3~4 R針系(ピンク) : 4.5~6 二重環ルーパー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 3
2本針3本糸カバーステッチ(L,C) 	カバーステッチL,C針 2.5mm幅 	L針系(ピンク) : 3~4 C針系(ピンク) : 3.5~5 二重環ルーパー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 3
2本針3本糸カバーステッチ(C,R) 	カバーステッチC,R針 2.5mm幅 	C針系(ピンク) : 3.5~5 R針系(ピンク) : 4.5~6 二重環ルーパー系(紫) : M	送り量(ぬい目の長さ) : 3





■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
- 保証書は、お買い上げのお店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。
- 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。
(保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。)
- このミシンは日本国内専用機種ですので、海外でのご使用はできません。また、海外での保証、アフターサービスは受けることができません。
- 保証期間経過後の修理につきましては、お買い上げのお店にご相談ください。
当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

JUKI

JUKI 株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、お買い上げのお店、または下記のお客様相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル

☎0120-677-601

年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く

平日(月～金) 9:00～12:00、13:00～17:00

Copyright © 2020-2023 JUKI CORPORATION
本書の内容を無断で転載、複製することを禁止します。

購入店名 後日のために記入しておいてください。
サービスを依頼されるときお役に立ちます。

電話 (- -)
購入年月日： 年 月 日